

209  
277  
11

準  
貴



うまひぐり 藤屋法華堂の板

義仲熱知記

道行をりし

竹本目錄

兒源氏道中軍記

義經十本櫻

丹州爺打栗

楠首齋

傾城抱軍談

室町千重丸

入鹿大臣皇都誦

初々盛衰記

築山譜娘入舞衫

禮重紅梅服

殿

五十一

指無傳教以羅

田化軍談

言漢楚軍談

新之

初々盛衰記



兒源氏

道

中

軍記

全

勤王の御子母儀此夜の射向あり瀧うらぬる東の  
正徳天皇の御子母儀此夜の射向あり瀧うらぬる東の  
老の御子母儀此夜の射向あり瀧うらぬる東の  
後言さるるこの御子母儀此夜の射向あり瀧うらぬる東の

京都  
嵐山  
嵯峨  
伊弉  
宇治  
宇都宮

時が延享元年三月六日  
御子母儀此夜の射向あり瀧うらぬる東の  
御子母儀此夜の射向あり瀧うらぬる東の  
御子母儀此夜の射向あり瀧うらぬる東の  
御子母儀此夜の射向あり瀧うらぬる東の  
御子母儀此夜の射向あり瀧うらぬる東の  
御子母儀此夜の射向あり瀧うらぬる東の  
御子母儀此夜の射向あり瀧うらぬる東の  
御子母儀此夜の射向あり瀧うらぬる東の  
御子母儀此夜の射向あり瀧うらぬる東の  
御子母儀此夜の射向あり瀧うらぬる東の

大吉



石山...  
平の...  
ひさ...  
あ...  
あ...

大角



大角

あ...  
あ...  
あ...

大わん



あ...  
あ...  
あ...

大い



あ...  
あ...  
あ...



あ...  
あ...  
あ...



あ...  
あ...  
あ...





信長の軍

久

七

信長

このころの  
信長の軍  
は、大いに  
強くなった。

信長は、  
大いに  
強くなった。

信長は、  
大いに  
強くなった。

信長は、  
大いに  
強くなった。

嵐

信長

信長は、  
大いに  
強くなった。

夜の  
半



びふ  
よる



の平  
の  
の

つねの  
つね



さ  
つ

あ  
あ  
あ



花  
十  
分



の  
の



の  
の

お  
お  
お



の  
の



の  
の



の  
の

の  
の



の  
の

Dr  
14

12  
10





二反  
中村周平

のあつ  
けいわ  
くえん  
あつと  
まんと

スでん

あつと  
まんと  
あつと  
まんと  
あつと  
まんと

くわあ

あつと  
まんと

あつと  
まんと

とろ  
あつと  
まんと

あつと  
まんと

あつと  
まんと

あつと  
まんと

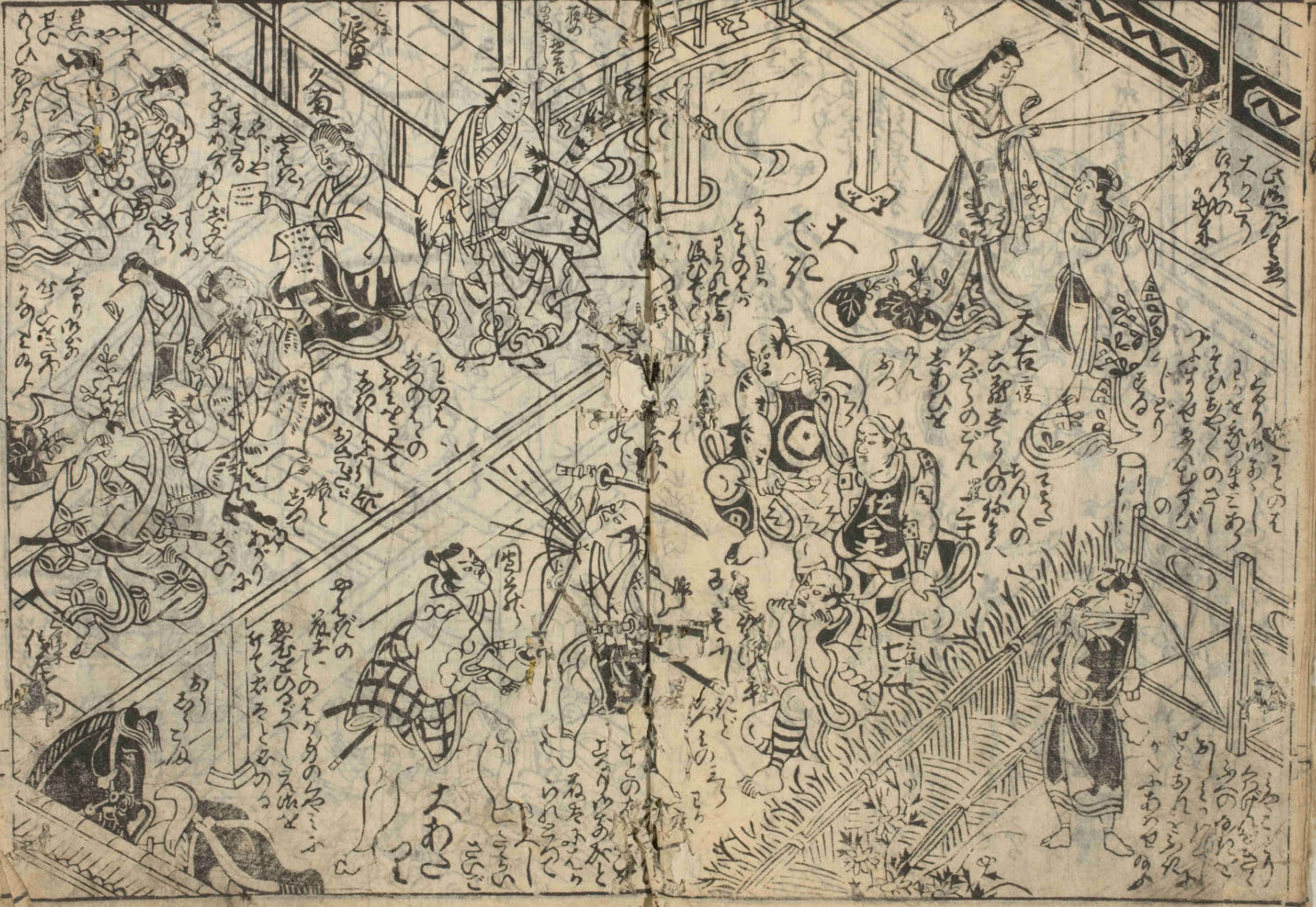
あつと  
まんと

あつと  
まんと

あつと  
まんと

あつと  
まんと

あつと  
まんと



おのり  
おのり  
おのり

おのり  
おのり  
おのり

おのり

おのり  
おのり

おのり  
おのり

おのり  
おのり

おのり  
おのり  
おのり

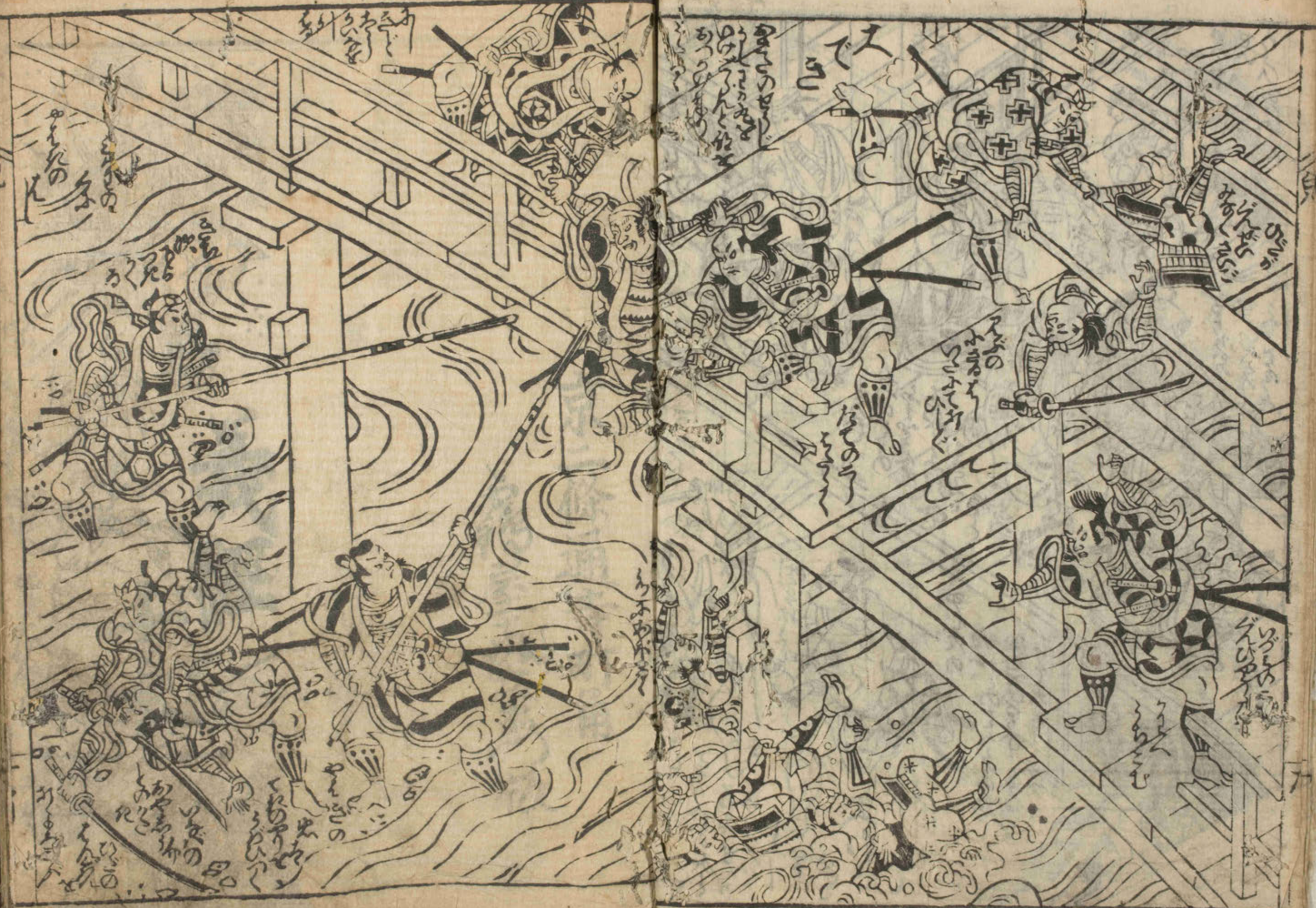
おのり  
おのり  
おのり

おのり  
おのり  
おのり

おのり

おのり  
おのり  
おのり

おのり  
おのり  
おのり



あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの

あつちの  
あつちの

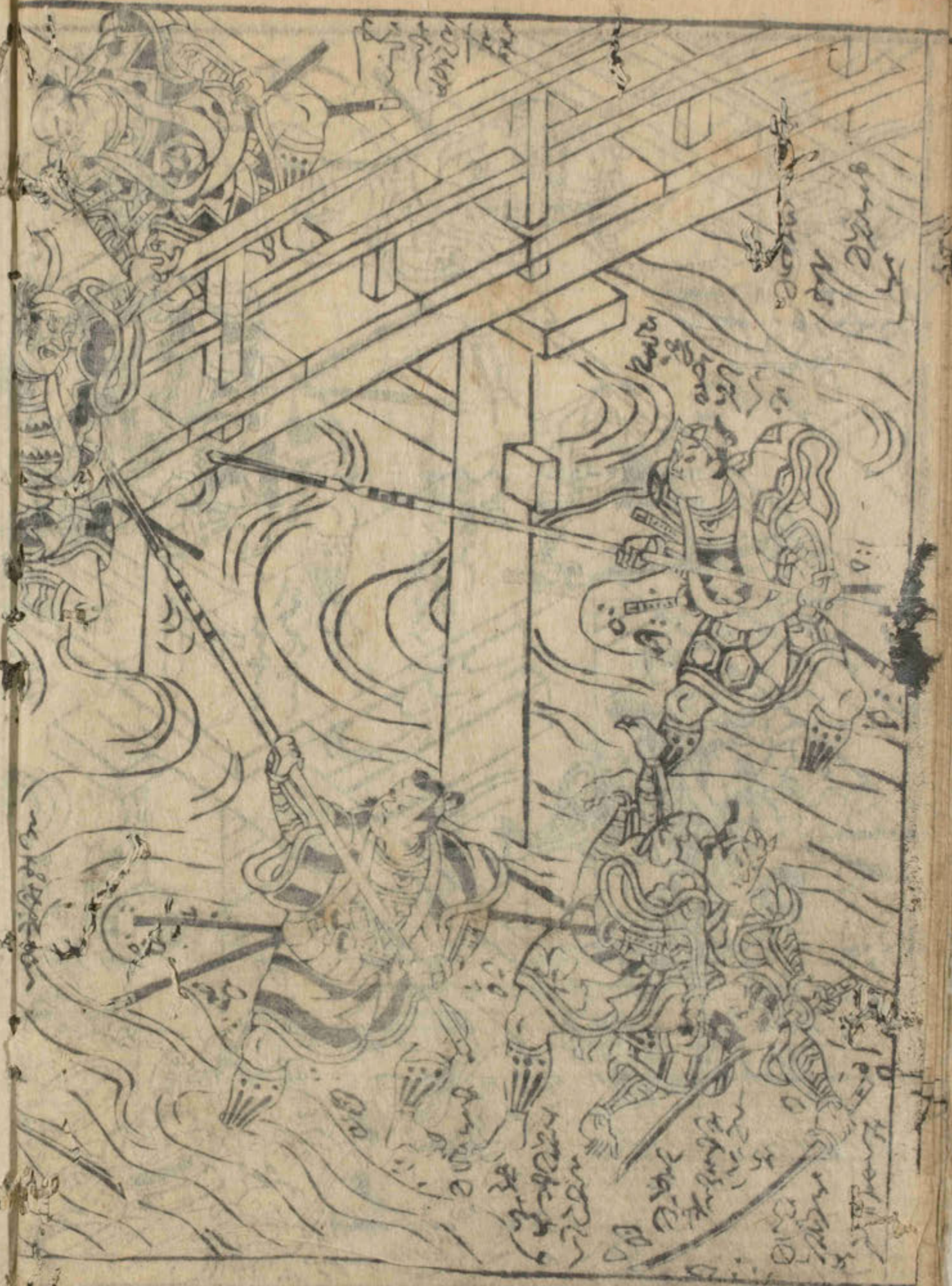


義經

十本

櫻

京二條通寺町角  
 龜屋松右衛門版





竹本義太夫

大物秘矢倉  
老種花矢倉



義經

千本

櫻

京二新撰御用

竹本義太夫



大物船大倉 義經十本梅 五夜

中州系大倉

吉野花実倉

辰坂月組



大物船大倉

大内記

中州系大倉

九条一子

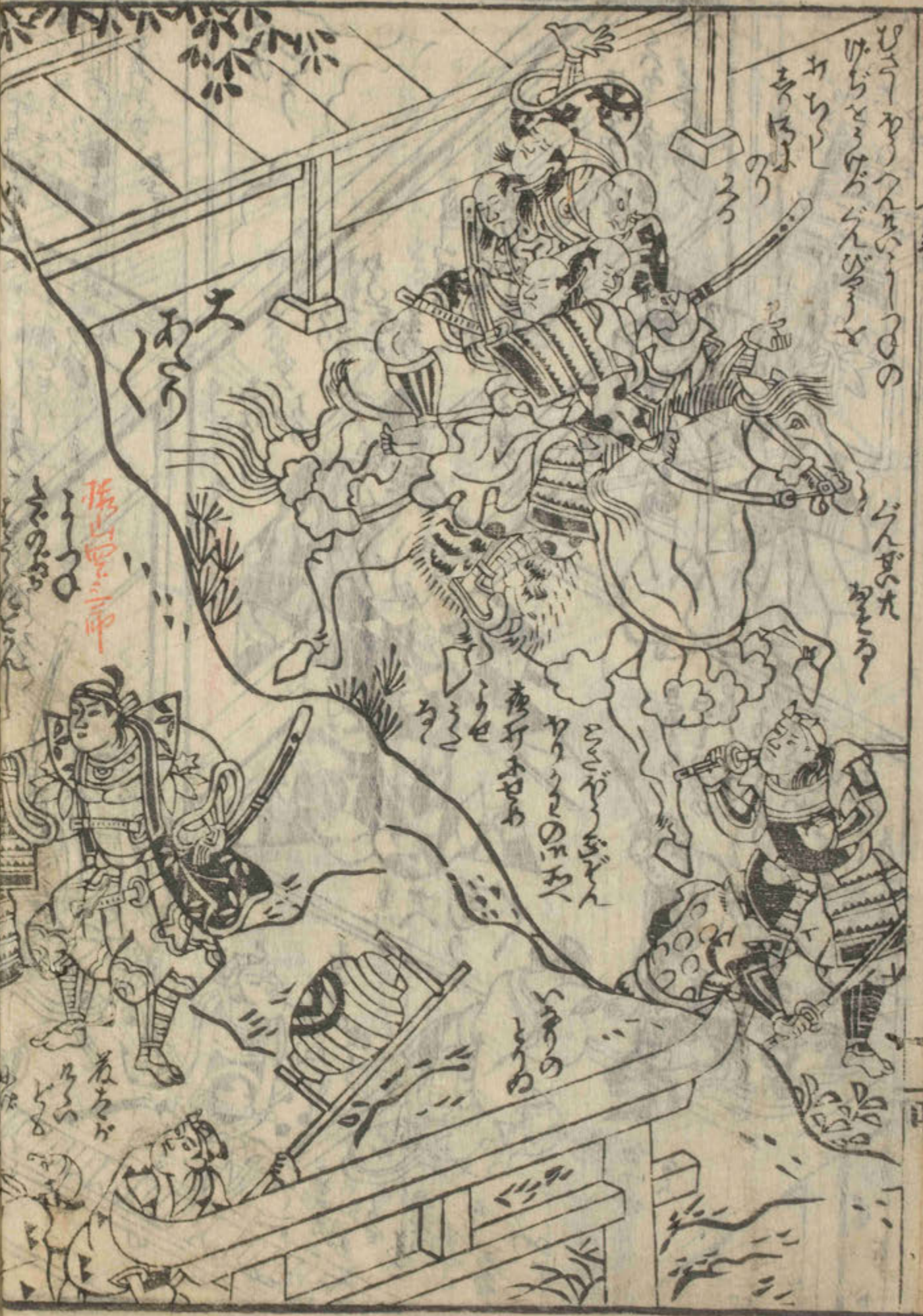
大物船大倉

大内記

大内記

大内記





ひらやうけんかゝりの  
ひらやうけんかゝりの  
ひらやうけんかゝりの

ぐんぎん  
あまの

やうげん  
やうげん  
やうげん

あまの

張山十郎

あまの



中野十郎

中山十郎

中野十郎

あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの

100

101







中村八重八

大和山とて

大和山とて



甲村金重

後江七郎のあはれ



甲村新七郎

小金吾がまはる



梅山

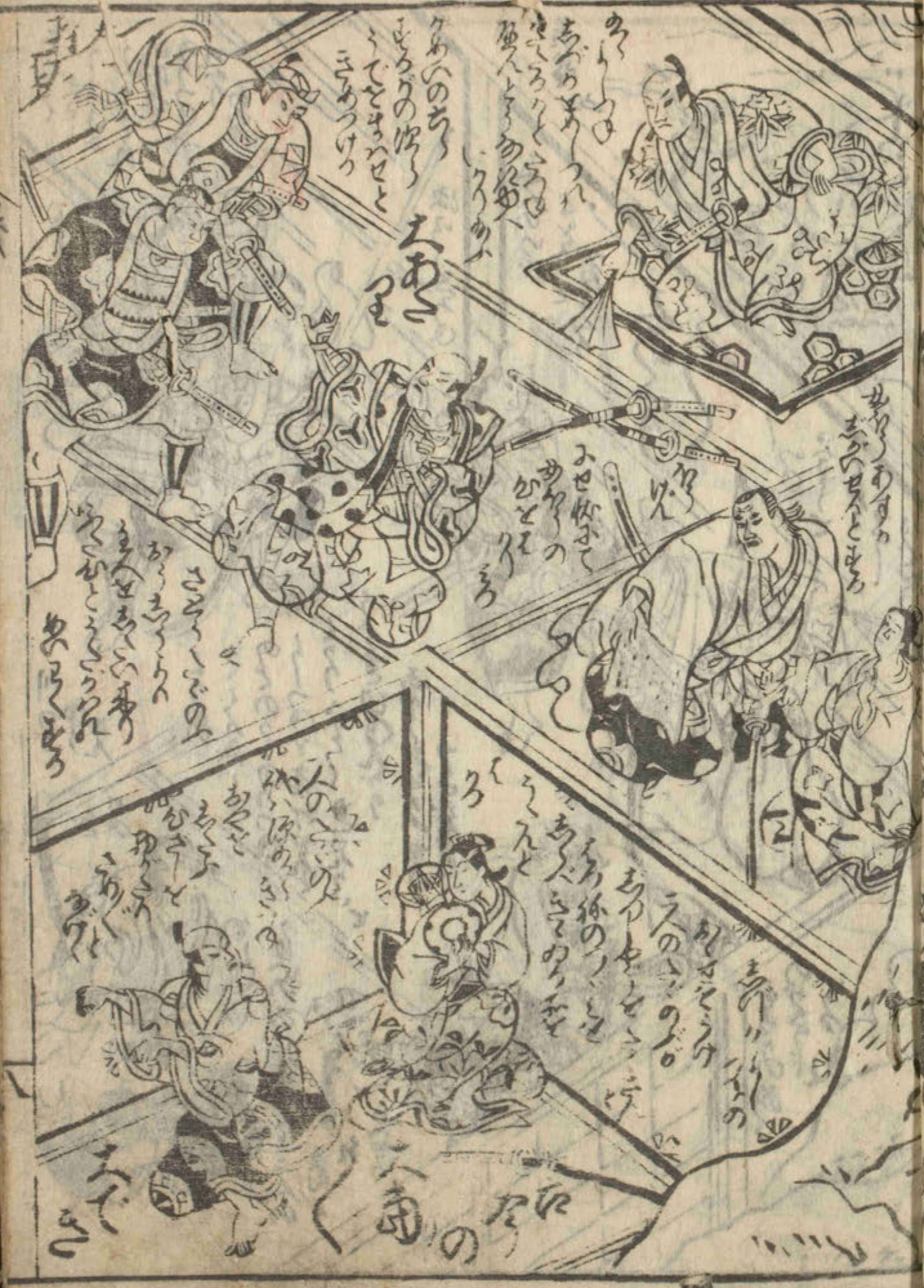
甲村工次



山平十郎

二重 中村八重八

山平十郎



カアノのち  
まろののち  
うでまのち  
まろののち

まろ

あつりま  
あつりま  
あつりま  
あつりま

あつりま  
あつりま  
あつりま  
あつりま

あつりま  
あつりま  
あつりま  
あつりま

あつりま  
あつりま  
あつりま  
あつりま

あつりま  
あつりま  
あつりま  
あつりま

あつりま  
あつりま  
あつりま  
あつりま

あつりま



あつりま  
あつりま  
あつりま  
あつりま

あつりま  
あつりま  
あつりま  
あつりま

あつりま  
あつりま  
あつりま  
あつりま

あつりま  
あつりま  
あつりま  
あつりま

あつりま  
あつりま  
あつりま  
あつりま

あつりま  
あつりま  
あつりま  
あつりま

あつりま



橋山新十郎

中村十藏

中山新十郎

中村新五郎



中村十藏

中山新十郎

橋山新十郎

橋山新十郎





公平若氏者

公時光氏者

丹品

お爺

栗

金

Handwritten text in cursive (sōsho) style, including the characters '栗' (Kuri) and '金' (Kan), likely serving as a commentary or a list of items related to the illustration.

集  
 葛田市太席  
 尾川市之巻  
 芝居  
 大巻

度真

序

州府竹本筑後掾替り新淨増壽丹  
 翁お栗田中柳心素一人書入批栗  
 三斗園性翁おれおぬる切と下  
 海栗おる而おぬるおぬるおぬる  
 生栗おるおぬるおぬるおぬる  
 栗の背おる竹の枝栗おぬるおぬる

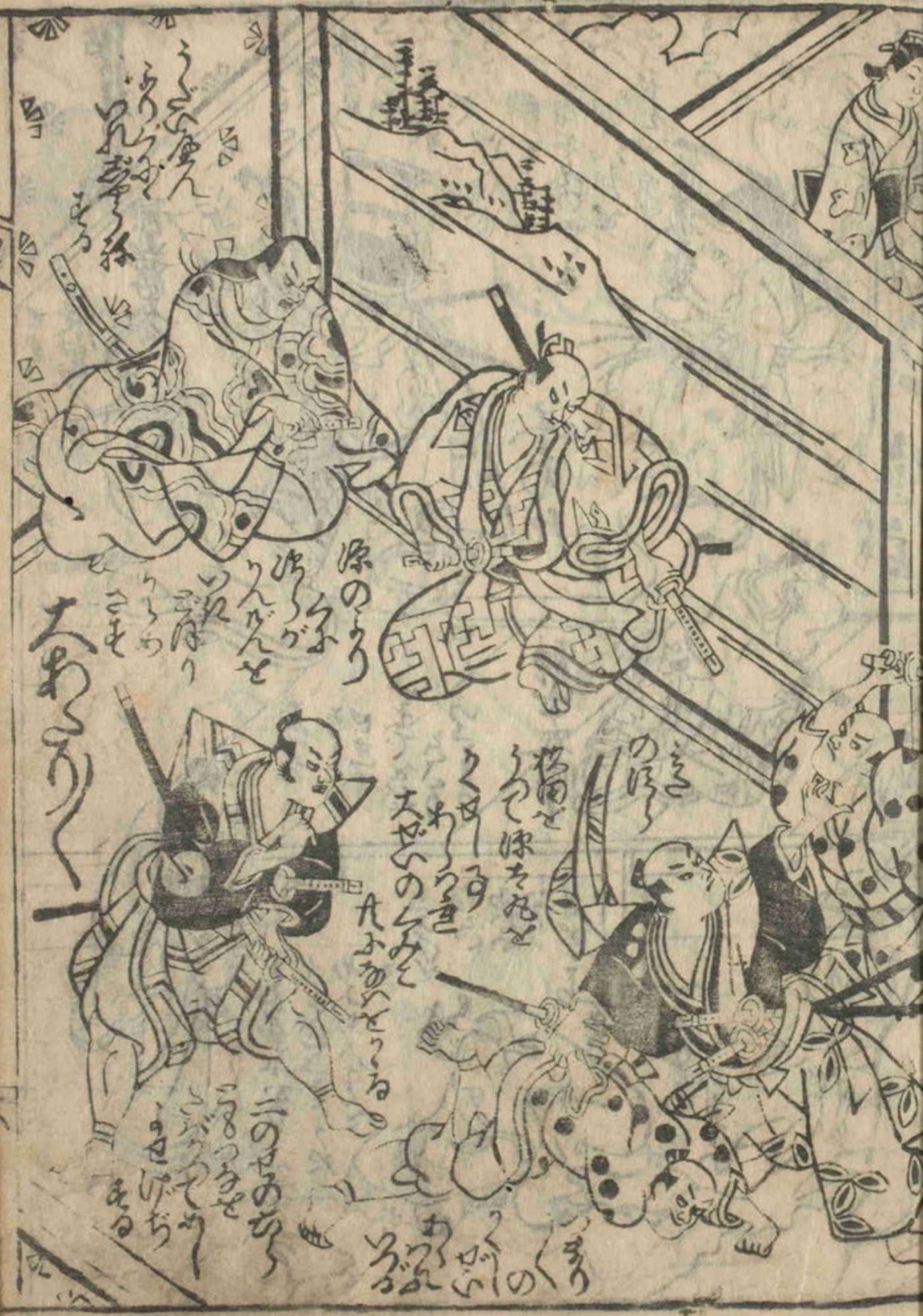
去即方の栗の

中本が新淨當り其命おハ  
 くらも中栗とと書けり









うしろへん  
あつちへん  
あつちへん

あつちへん  
あつちへん  
あつちへん

源のうら  
あつちへん  
あつちへん

あつちへん  
あつちへん  
あつちへん

あつちへん  
あつちへん  
あつちへん

あつちへん  
あつちへん  
あつちへん

あつちへん  
あつちへん  
あつちへん

あつちへん  
あつちへん  
あつちへん

あつちへん  
あつちへん  
あつちへん

あつちへん  
あつちへん  
あつちへん

あつちへん  
あつちへん  
あつちへん

あつちへん  
あつちへん  
あつちへん

七草(しちそう) 辰巳(たつみ)の菊(きく) 辰巳(たつみ)の菊(きく) 辰巳(たつみ)の菊(きく)

神尊(かみみこと)



神守(かみもり)太師(だいし)



大(おほ)あれた

大(おほ)あれた 辰巳(たつみ)の菊(きく) 辰巳(たつみ)の菊(きく)



辰巳(たつみ)の菊(きく) 辰巳(たつみ)の菊(きく)



辰巳(たつみ)の菊(きく) 辰巳(たつみ)の菊(きく)

辰巳(たつみ)の菊(きく) 辰巳(たつみ)の菊(きく)





か今のえわりの

神田十右衛門

神田 買戻

かよのり

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの



かよのり

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの



藤川中三郎  
おののけ  
かえんやと大本  
子のかた  
あやせ

竹中孫吉

徳田新助

公家

いそひん  
ちひん  
いそひ



ひつうどの今も平  
よのよふゆい入  
おやご時おのり  
させうせうせう  
年のおんせ  
うけいせ  
きりふふ  
あやせ  
さかしの  
やみあせ  
このこと  
びのこのさ平  
おせりおんせ  
おんせ

いそひん  
かみけい  
おののけ

おののけ  
ひこ

くらねの  
うらこ  
うらこ

いそひん



源のありふ  
くちをい  
男とくち  
わも

源のありふ  
くちをい  
男とくち  
わも

源のありふ  
くちをい  
男とくち  
わも

源のありふ  
くちをい  
男とくち  
わも

源のありふ  
くちをい  
男とくち  
わも

源のありふ  
くちをい  
男とくち  
わも



源のありふ  
くちをい  
男とくち  
わも

源のありふ  
くちをい  
男とくち  
わも

源のありふ  
くちをい  
男とくち  
わも

源のありふ  
くちをい  
男とくち  
わも

源のありふ  
くちをい  
男とくち  
わも

源のありふ  
くちをい  
男とくち  
わも

源のありふ  
くちをい  
男とくち  
わも

源のありふ  
くちをい  
男とくち  
わも



ちい  
やま  
まむら  
祖父の山菜川小  
祖母の川は濯小

楠背新

金

火 糸 且 履 續

京三冬置者早也  
 新刊世物語

十の八

新

加

計略は遠箱のよこす

父の死に細神子の後をよす時と時  
八九月別格の常力

并に軍意は二重堀の多程小のさす  
恩の死に後をよす時と時  
と延言教文の手形

初段

竹本は素  
竹本は素  
竹本は素  
竹本は素

戴段

竹本は素  
竹本は素  
竹本は素  
竹本は素

二段

竹本は素  
竹本は素  
竹本は素  
竹本は素

中段

竹本は素  
竹本は素  
竹本は素  
竹本は素

初段

竹本は素  
竹本は素  
竹本は素  
竹本は素



初段

神祕武家之門香  
付正月にけりの中



二段

湯毎出家之立雛  
付三月の日の



三段

枕麿一家之鑑兜  
付八月の日の



四段

旗本公家之短冊  
付七月の日の



五段

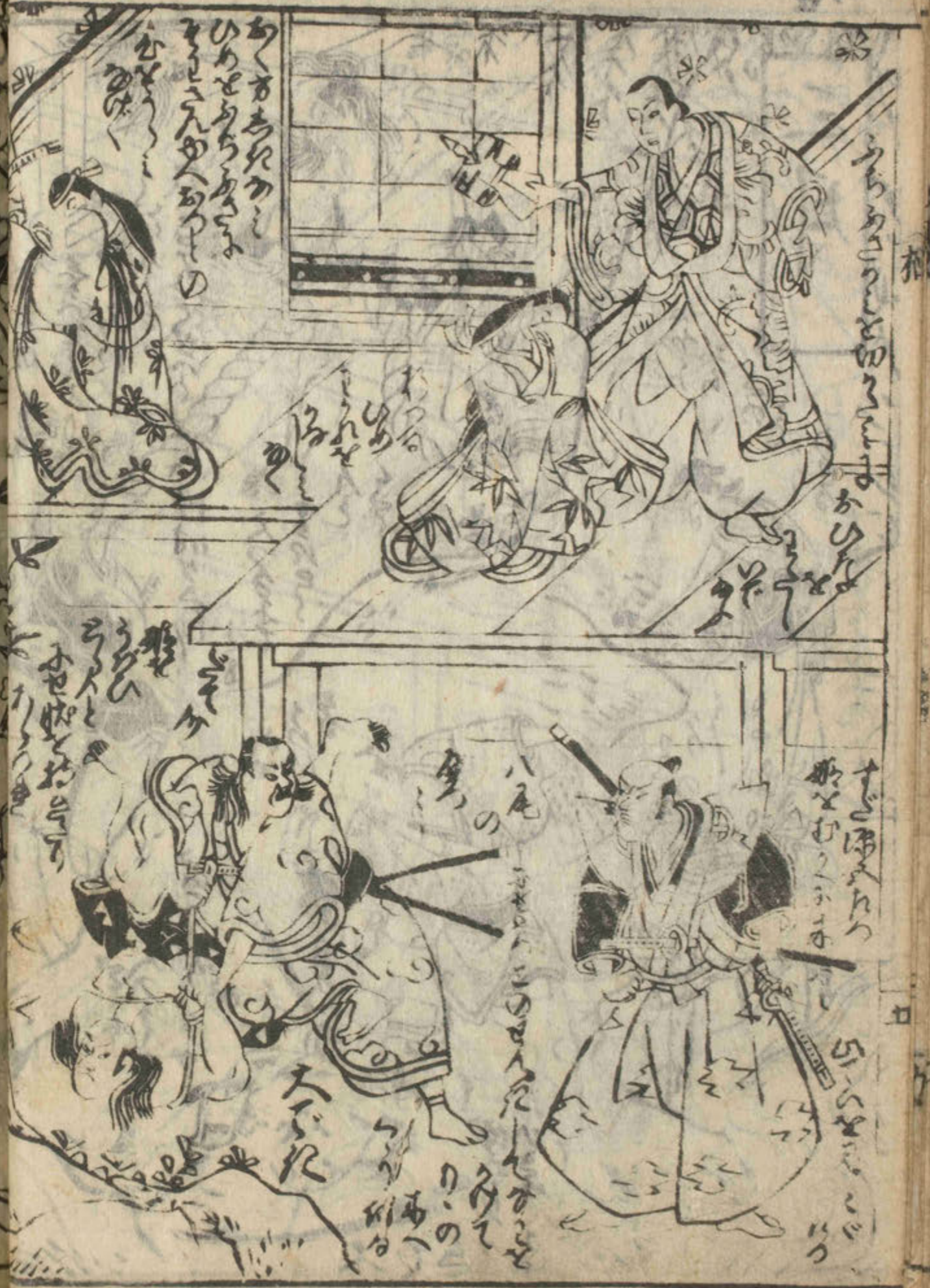
收新補家之菊合  
付九月の日の





三月







松葉

大南

大南



八月

松葉

田舎

松葉

大南

松葉

大南

大南

大南

七月



身介の  
ちのり  
かたき  
大でん

楠

二重  
の  
お

まの  
日月の  
ま



あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ



あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

あひ  
あひ  
あひ  
あひ  
あひ

九月

大わら





竹本義大夫

七葉四布  
收研心  
七葉四布

竹本義大夫  
收研心



松軍儀

八幡物



傾城

卷二 茶屋 竹本義大夫

竹本義大夫

竹本







三日月

おきこころのついで

大首

七重のついで  
おきこころのついで  
おきこころのついで



おきこころのついで  
おきこころのついで  
おきこころのついで



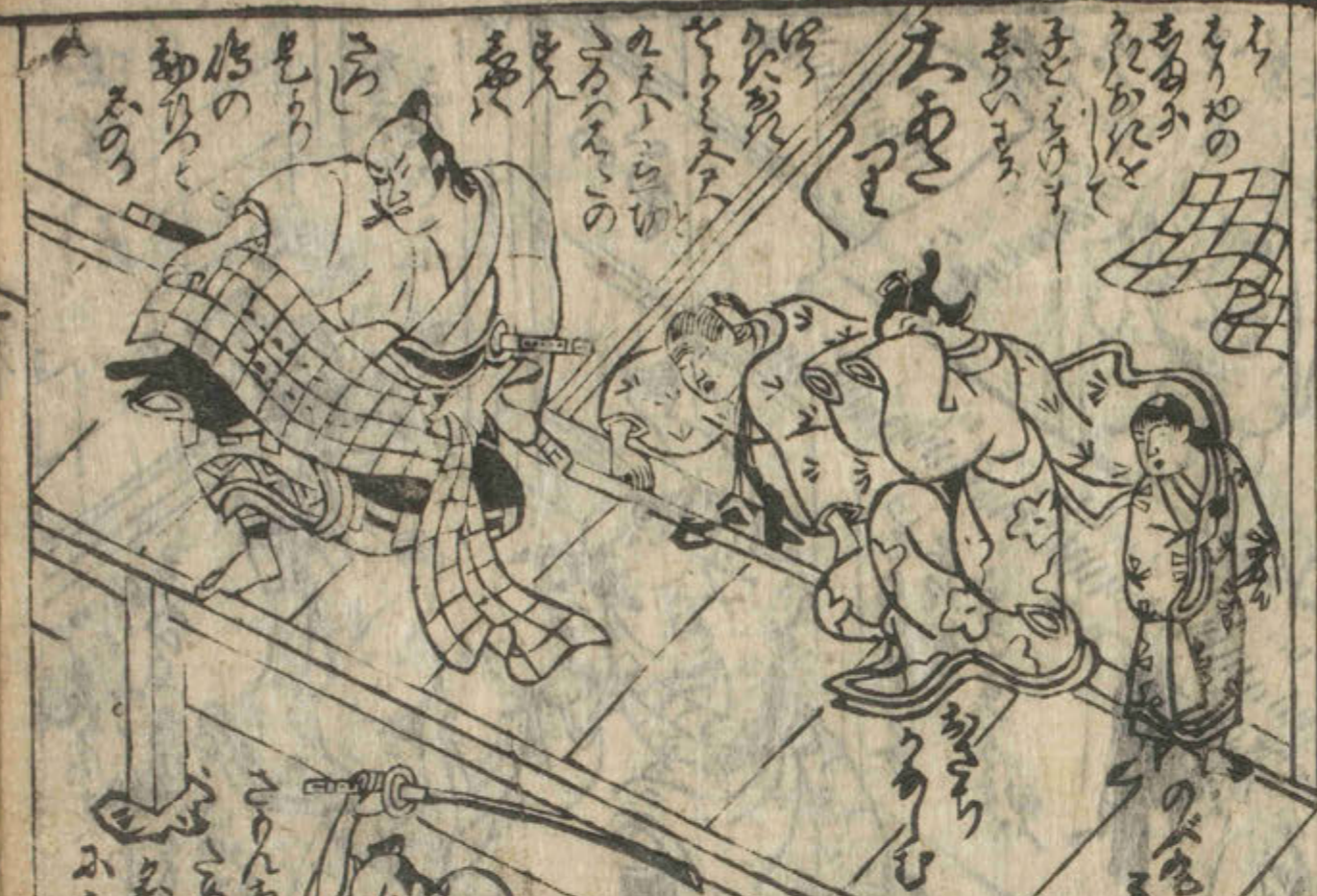
おきこころのついで  
おきこころのついで  
おきこころのついで



おきこころのついで  
おきこころのついで  
おきこころのついで



おきこころのついで  
おきこころのついで  
おきこころのついで



おきこころのついで  
おきこころのついで  
おきこころのついで



おきこころのついで  
おきこころのついで  
おきこころのついで

四徳月

あつた  
まはらぐ  
ついでに  
あつた  
まはらぐ  
ついでに



大あ  
つた

ついでに  
あつた  
まはらぐ  
ついでに

あつた  
まはらぐ  
ついでに

あつた  
まはらぐ  
ついでに

あつた  
まはらぐ  
ついでに

あつた  
まはらぐ  
ついでに

三徳月



あつた  
まはらぐ  
ついでに

あつた  
まはらぐ  
ついでに

あつた  
まはらぐ  
ついでに

あつた  
まはらぐ  
ついでに

あつた  
まはらぐ  
ついでに



あつた  
まはらぐ  
ついでに

あつた  
まはらぐ  
ついでに

あつた  
まはらぐ  
ついでに

あつた  
まはらぐ  
ついでに



七橋目



このまの  
かまどと  
おりのこと  
お初生さんぶ  
とる人おふ



お初生さんぶ  
とる人おふ  
おりのこと  
かまどと

お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ

大痛



お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ

お初生さんぶ  
とる人おふ



あまのうし  
のう  
あまのうし  
あまのうし  
あまのうし

あまのうし  
あまのうし  
あまのうし  
あまのうし  
あまのうし

あまのうし  
あまのうし  
あまのうし  
あまのうし  
あまのうし

あまのうし  
あまのうし  
あまのうし  
あまのうし  
あまのうし

あまのうし  
あまのうし  
あまのうし  
あまのうし  
あまのうし

あまのうし  
あまのうし  
あまのうし  
あまのうし  
あまのうし

あまのうし  
あまのうし  
あまのうし  
あまのうし  
あまのうし



室町お尋ね

あつた

金

二原を大前角  
しりぞきおの板

お尋ね

お尋ね

お尋ね



経目  
翻転



室町子母夜

あつた

金

二原を去前席  
しりくを去る板

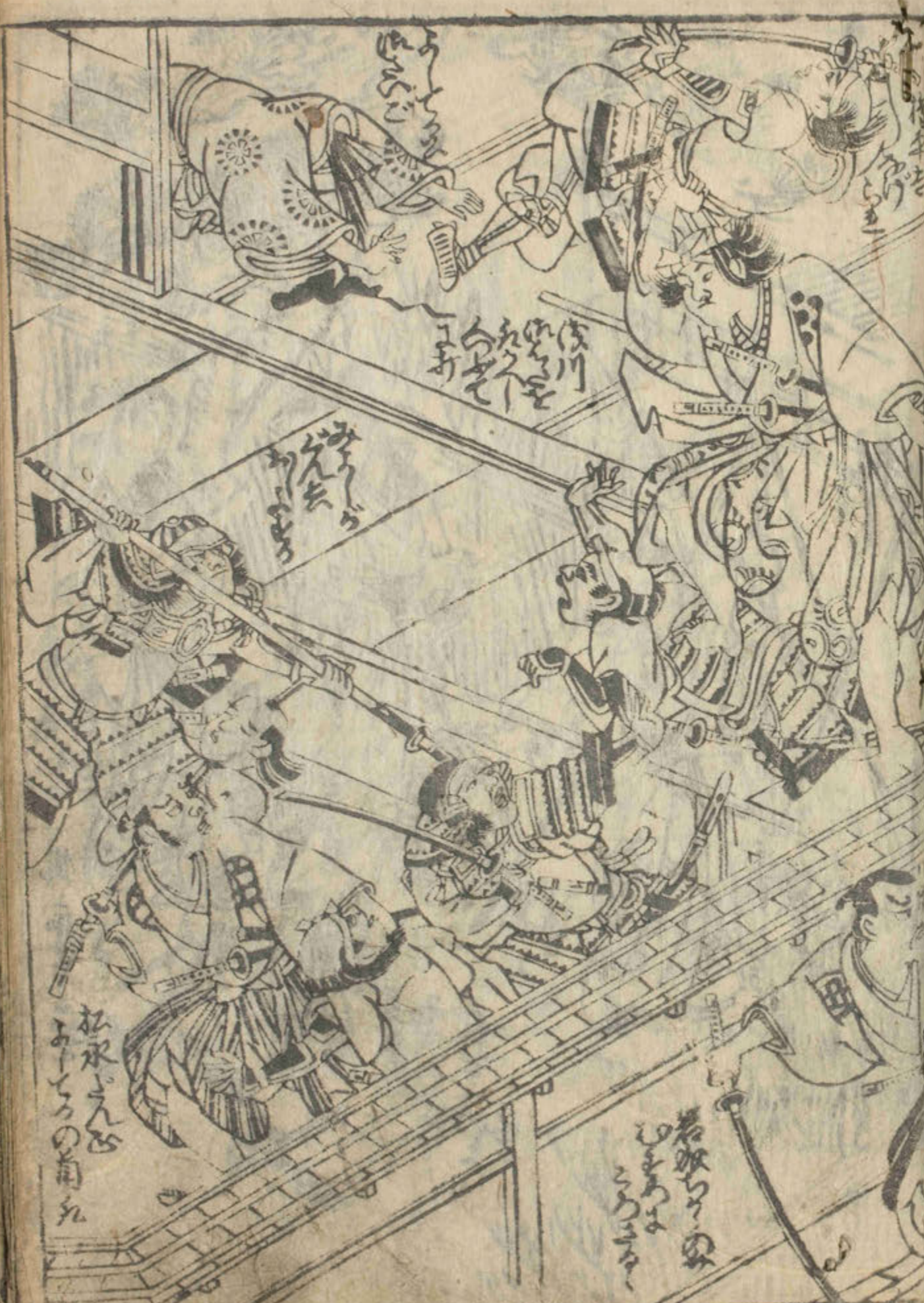
Handwritten text in cursive script, likely a commentary or a list of items related to the scene.

Handwritten text in cursive script, possibly a title or a note.









河川  
の  
て  
り  
て

あ  
ら  
ま  
り  
の  
ま  
り

松  
永  
と  
ん  
の  
前  
に

あ  
ら  
ま  
り  
の  
ま  
り



あ  
ら  
ま  
り  
の  
ま  
り

あ  
ら  
ま  
り  
の  
ま  
り

あ  
ら  
ま  
り  
の  
ま  
り

あ  
ら  
ま  
り  
の  
ま  
り













世話十口

漢軍談

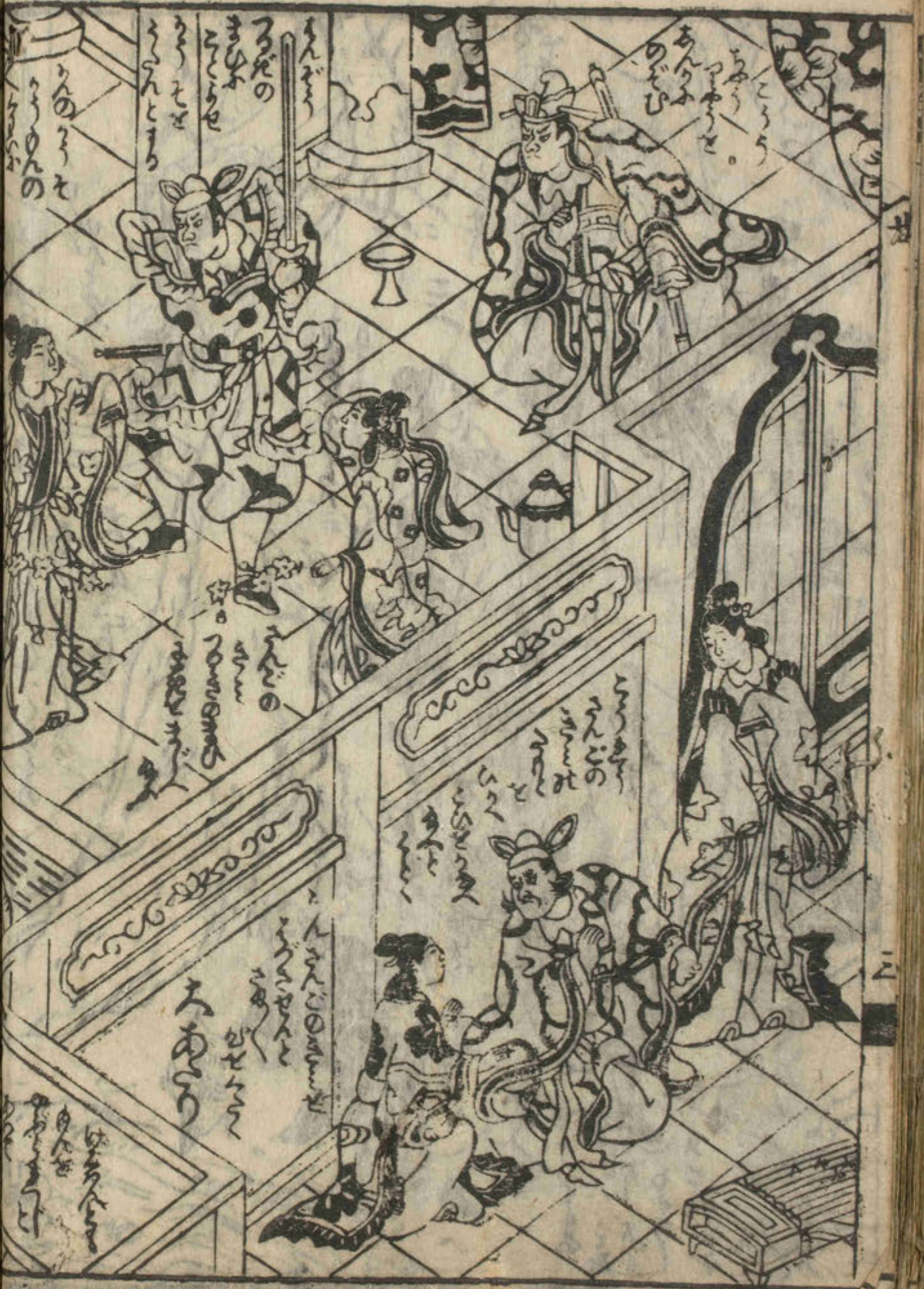
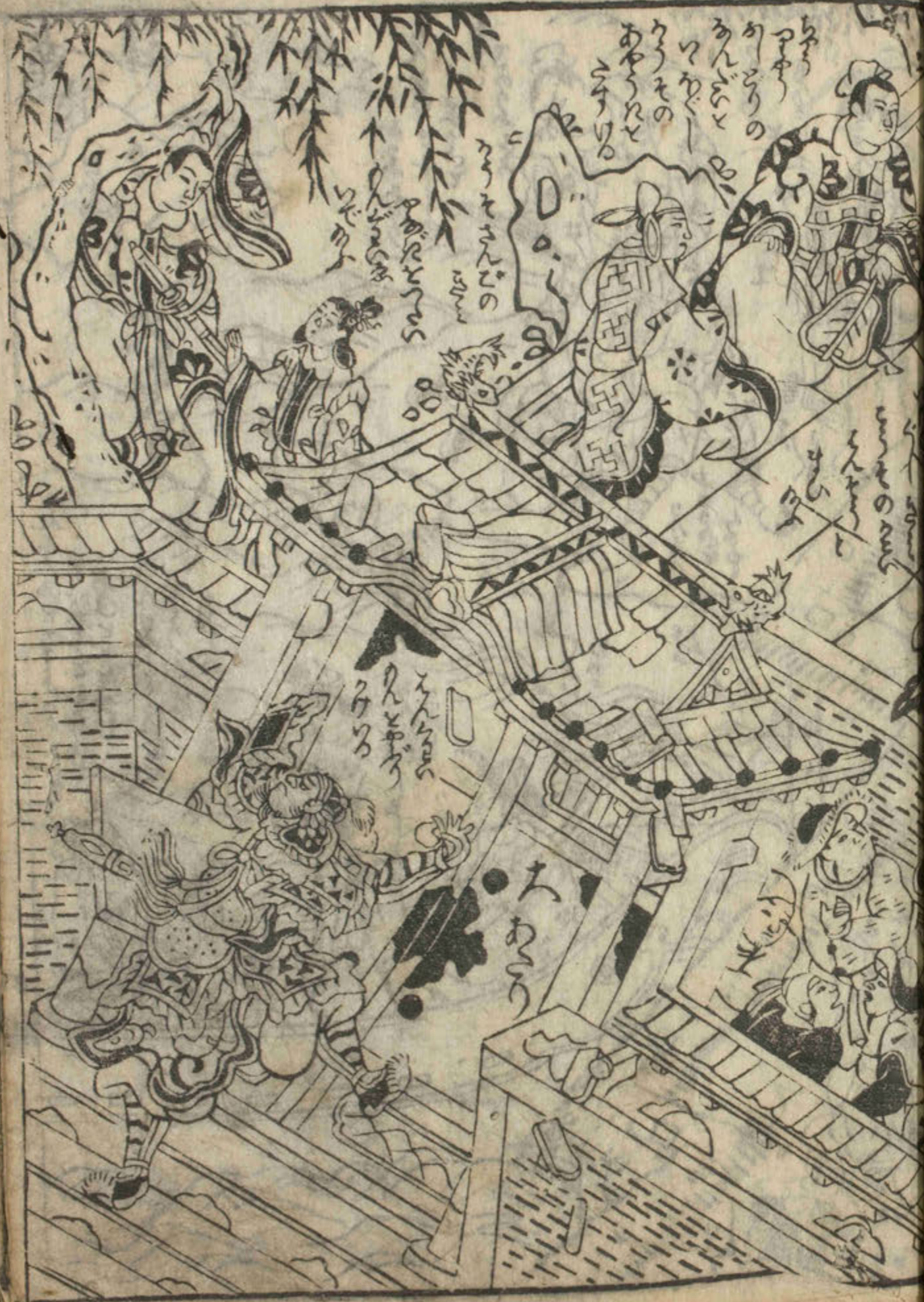
忠流

世話十口  
漢軍談

五

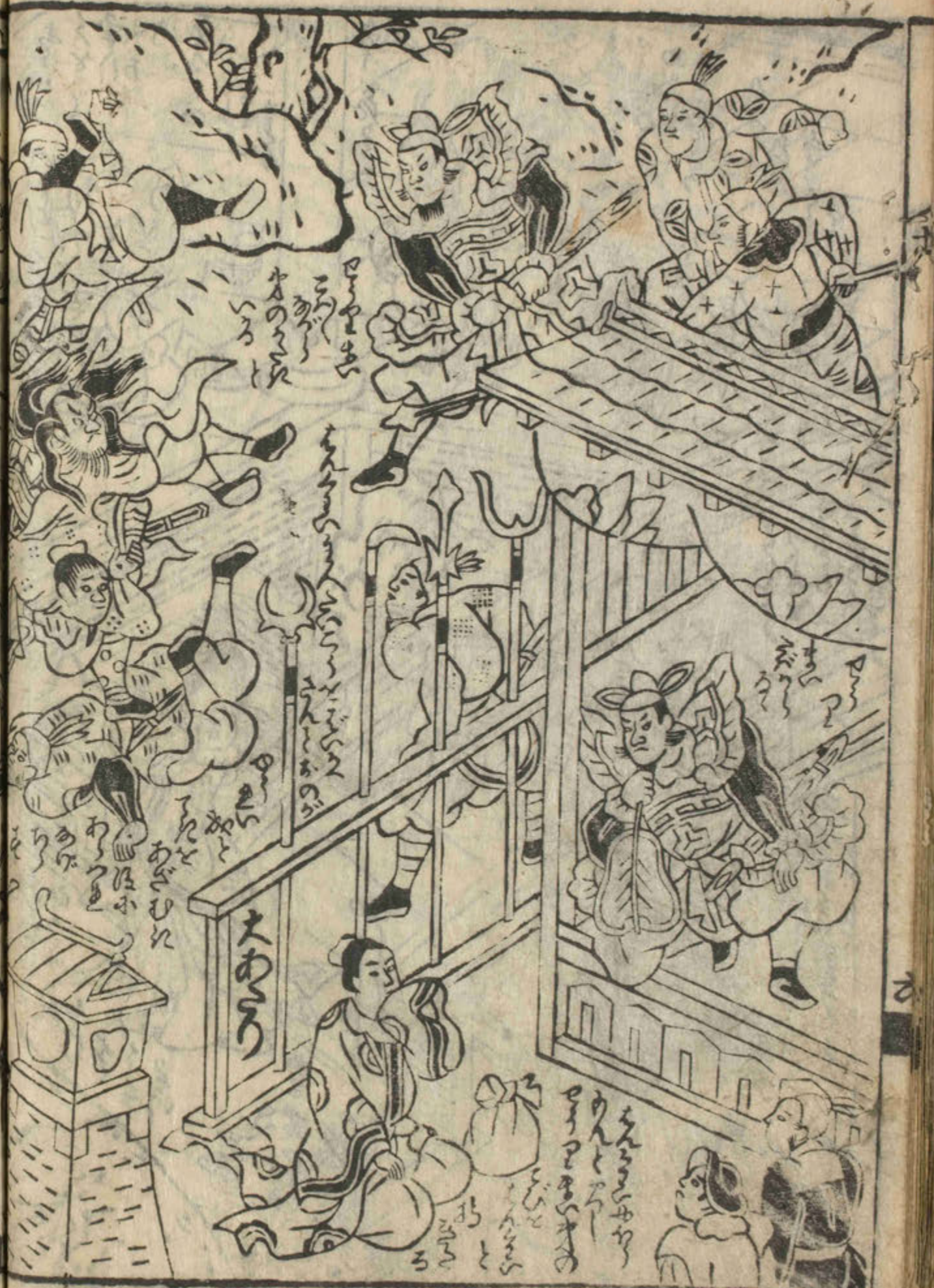
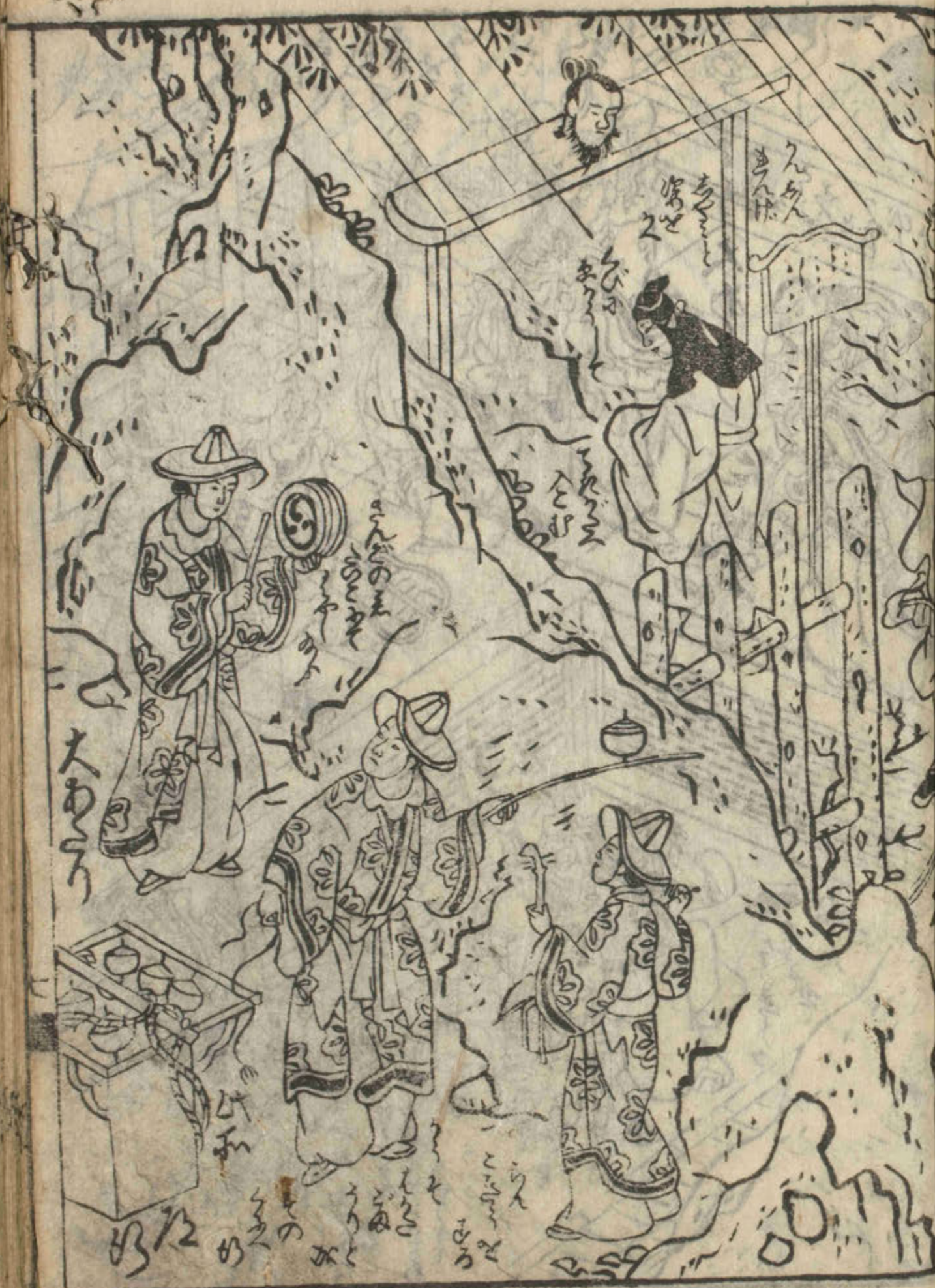

 世話言漢楚軍談五 竹本鏡後縁















男物五馬金



大坂文七  
継左

又巻綴  
品次



京三條通寺町角  
鶴屋喜右衛門板

右巻目録

綴目糊転

男作五馬金

れとこたてい

あ

大坂文七

継左

繁治



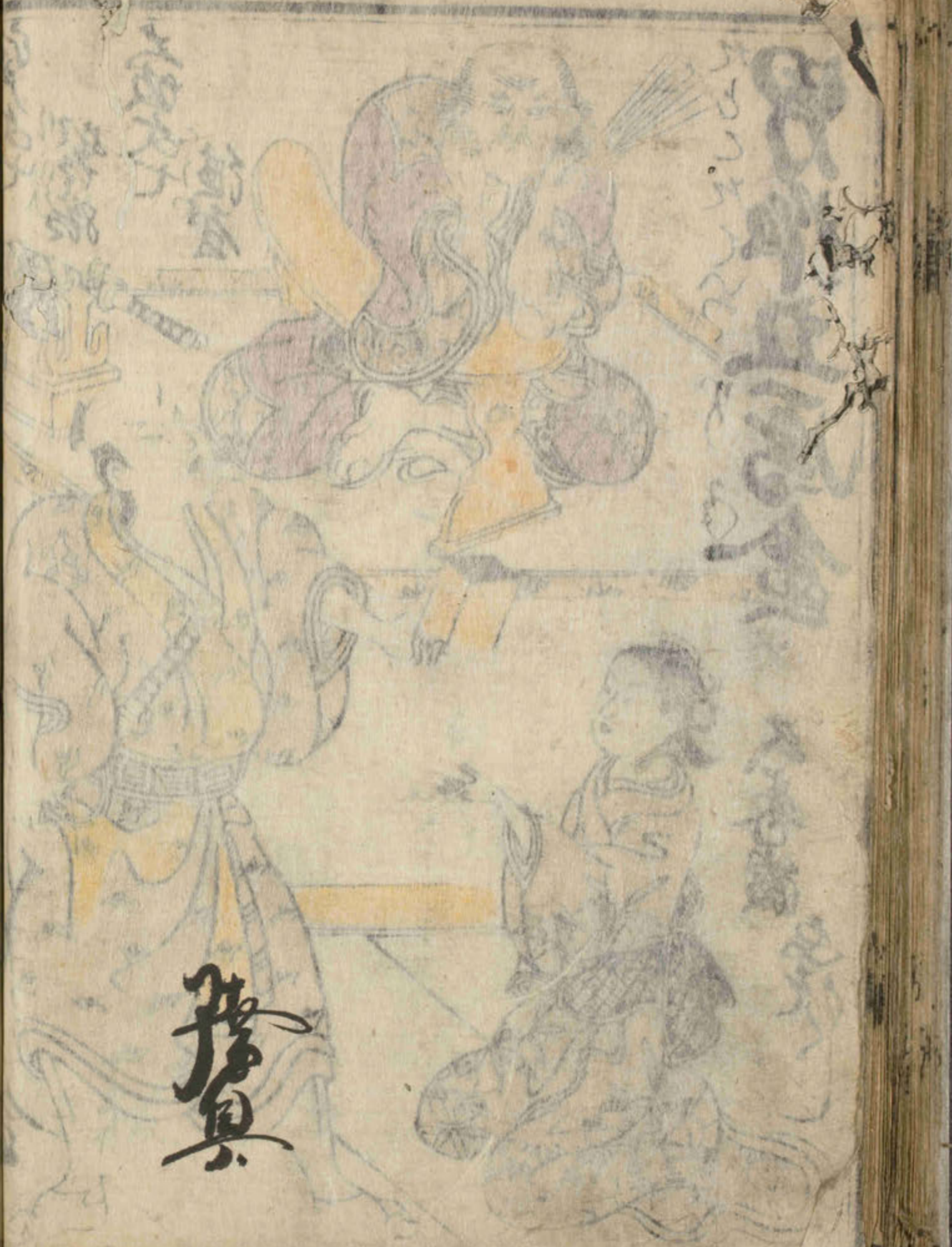
又巻綴

あは



京二條退寺町角  
鶴屋喜右衛門板

物名を飛にりて夢り新津海理難波男作  
 江戸の競組極くさいひを中津川作と云ふ後  
 深心結成の文七が身の上鷹金の翅たぐも百廿五  
 の園吹この影の物と趣向の物と東大快意のよ  
 本集一又巻録志気なるもの記録難波文七の  
 江戸道者大坂男作の化か一作七月二可初一巻  
 時々の病む者津海理の評判と家日記已



飛真

望深行極本屋の辰

おきうの辰屋文七くちや  
のちうの辰屋



乃ん第  
乃ん第  
乃ん第  
乃ん第

乃ん第  
乃ん第  
乃ん第  
乃ん第

乃ん第  
乃ん第  
乃ん第  
乃ん第

乃ん第  
乃ん第  
乃ん第  
乃ん第



乃ん第  
乃ん第  
乃ん第  
乃ん第

乃ん第  
乃ん第  
乃ん第  
乃ん第

乃ん第  
乃ん第  
乃ん第  
乃ん第

乃ん第  
乃ん第  
乃ん第  
乃ん第



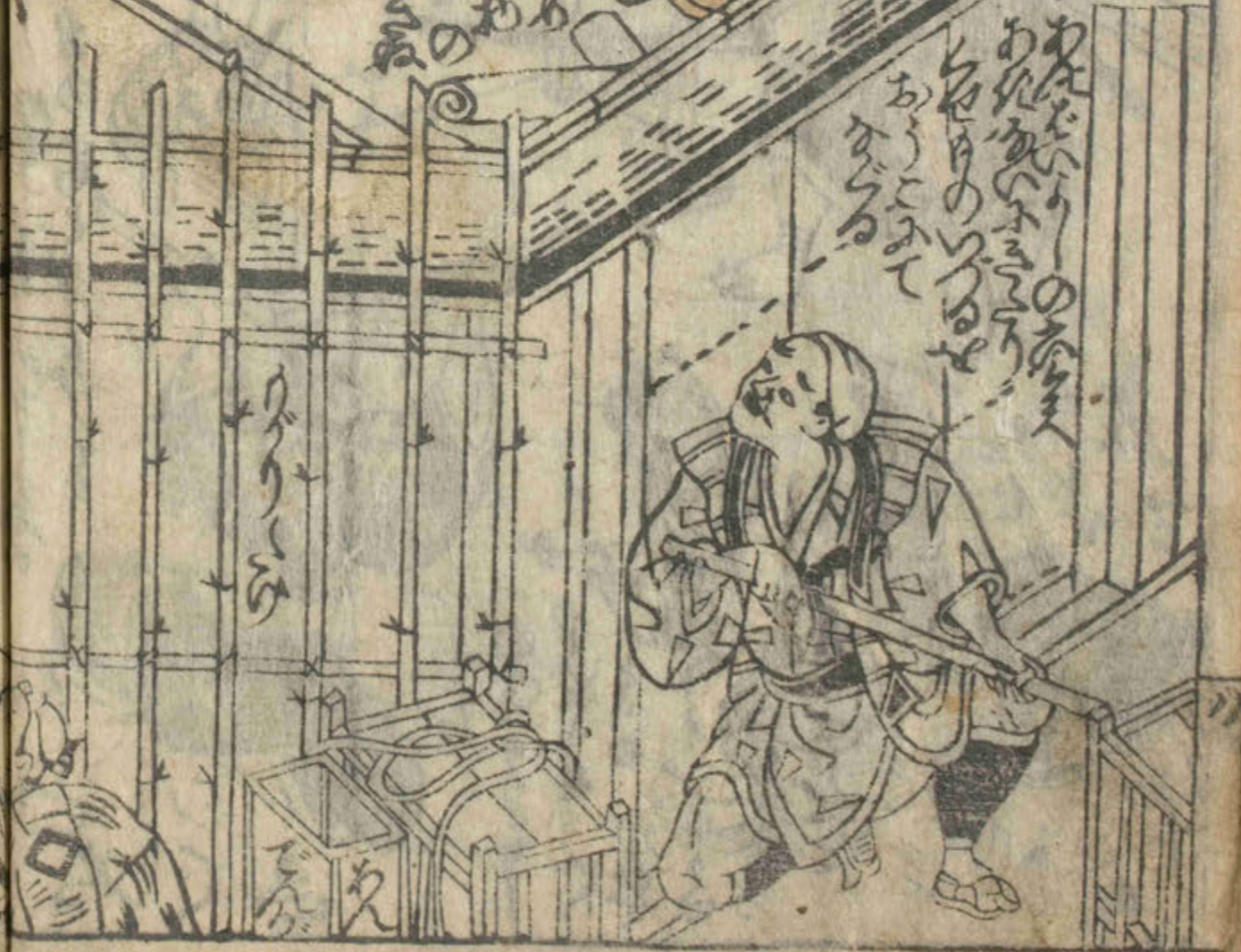








町波屋伝をり伝





新町捕物殿

乃の愛のつゝ

わがと  
わがと  
わがと

うが  
うが  
うが

わが  
わが  
わが

ころ  
で

新町の  
ついで

あつ  
あつ

わが  
わが  
わが

大あ

けあ

わが  
わが  
わが

あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ

皇都  
誦



王代  
實記

入鹿



大臣



皇都誦  
王代實記  
入鹿  
大臣

皇極經世一



木實音  
王八

是やまをそそぐはるるは行年筑後がまはき連中ぞ

ごまうややまは夜の影海理に付てあつるは評判

がれたるは板も出来たりぬたり三人所海所海

なるぬ海理がふせむるは擦河いふせそ歌歌歌大新奉

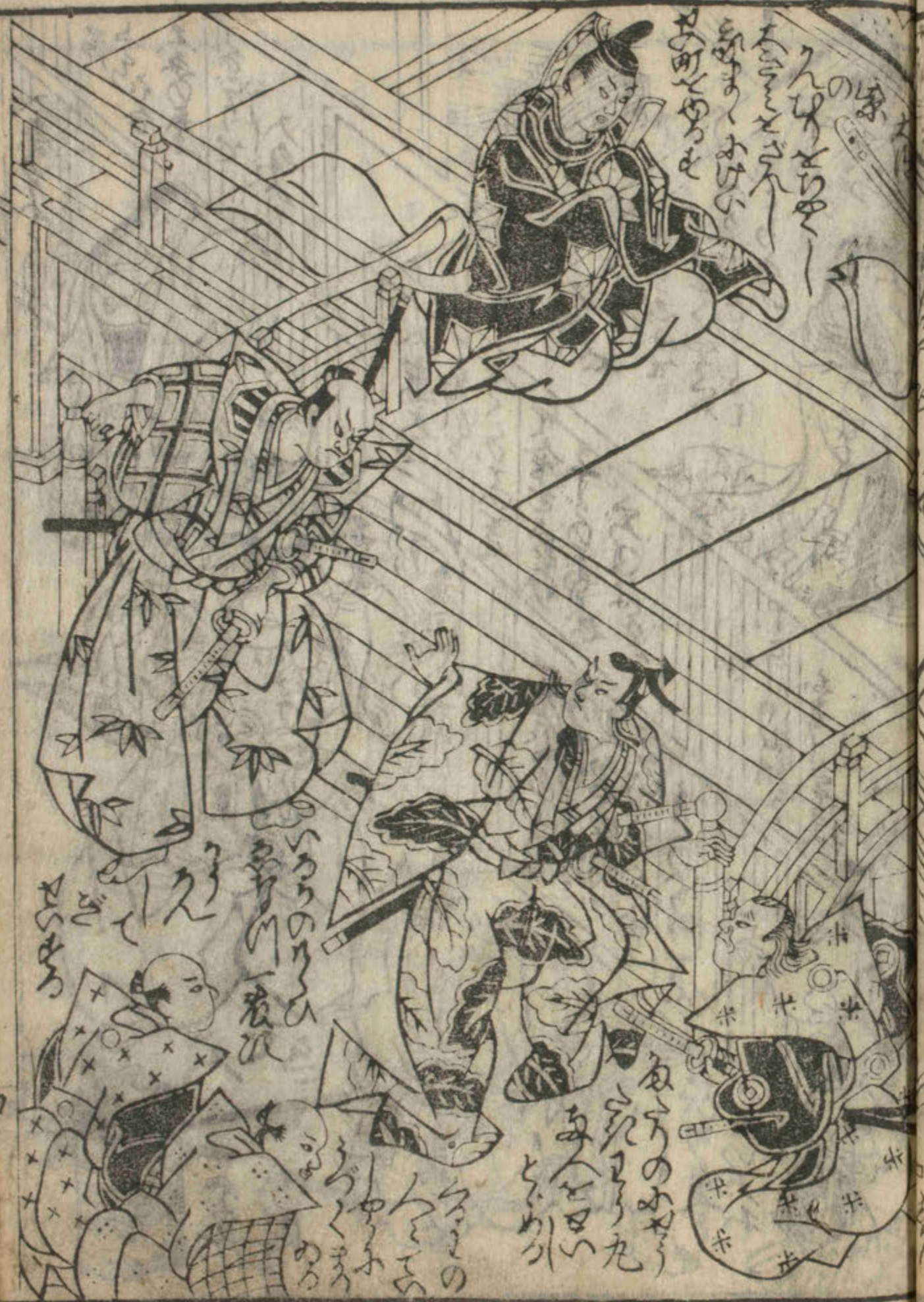
が病むるはいふぬ歌なるは一の船の舟がふせむるは三人

よふと智仁男の孫小まてもの入茶が物歌さ人神遊の

焼徳小村をら道にさめうかむるは四の八の人むるは音小

大へのいさお大のふり徳田とホらむるは音小

ほむむと音小の月



おのゝ  
おのゝ  
おのゝ

おのゝの  
おのゝの  
おのゝの

おのゝの  
おのゝの  
おのゝの



おのゝ  
おのゝ  
おのゝ

おのゝの  
おのゝの  
おのゝの

おのゝの  
おのゝの  
おのゝの

おのゝの  
おのゝの  
おのゝの



多  
 の  
 上  
 の  
 一  
 行  
 の  
 人  
 等  
 の  
 一  
 行  
 の  
 人  
 等



中  
 の  
 人  
 の  
 一  
 行  
 の  
 人  
 等

か  
 の  
 人  
 の  
 一  
 行  
 の  
 人  
 等

小  
 車  
 の  
 人  
 の  
 一  
 行  
 の  
 人  
 等

か  
 の  
 人  
 の  
 一  
 行  
 の  
 人  
 等



小  
 車  
 の  
 人  
 の  
 一  
 行  
 の  
 人  
 等

か  
 の  
 人  
 の  
 一  
 行  
 の  
 人  
 等

か  
 の  
 人  
 の  
 一  
 行  
 の  
 人  
 等

か  
 の  
 人  
 の  
 一  
 行  
 の  
 人  
 等









入康の  
おとつた  
いふ  
は

大店の  
主人の  
おとつた  
いふ  
は

おとつた  
いふ  
は

おとつた  
いふ  
は

おとつた  
いふ  
は

おとつた  
いふ  
は



大店の  
主人の  
おとつた  
いふ  
は

おとつた  
いふ  
は

おとつた  
いふ  
は

おとつた  
いふ  
は

おとつた  
いふ  
は

おとつた  
いふ  
は



あつひんをぐし  
わがのつらぎ  
あま

入番の

あまのつらぎ  
あまのつらぎ  
あまのつらぎ

あまのつらぎ

あまのつらぎ



あまのつらぎ  
あまのつらぎ

あまのつらぎ  
あまのつらぎ  
あまのつらぎ

あまのつらぎ  
あまのつらぎ  
あまのつらぎ

あまのつらぎ  
あまのつらぎ  
あまのつらぎ

送樽松 あづきののむら  
矢服梅

盛衰記 いさかひ  
いしかな



あはれく  
金

いさかひいさかひいさかひ

古今圖書集成 行部 稽察 廣 山 錄

之 又 其 未 是 行 身 之 可 不

無 之 一 下

新板 繪盡

記 一 乃 成 世 長 記

五 五 五 五 五

初 卷

初 卷 一 乃 成 世 長 記 一 乃 成 世 長 記 一 乃 成 世 長 記

二 卷

二 卷 一 乃 成 世 長 記 一 乃 成 世 長 記 一 乃 成 世 長 記

三 卷

三 卷 一 乃 成 世 長 記 一 乃 成 世 長 記 一 乃 成 世 長 記

四 卷

四 卷 一 乃 成 世 長 記 一 乃 成 世 長 記 一 乃 成 世 長 記

五 卷

五 卷 一 乃 成 世 長 記 一 乃 成 世 長 記 一 乃 成 世 長 記

110

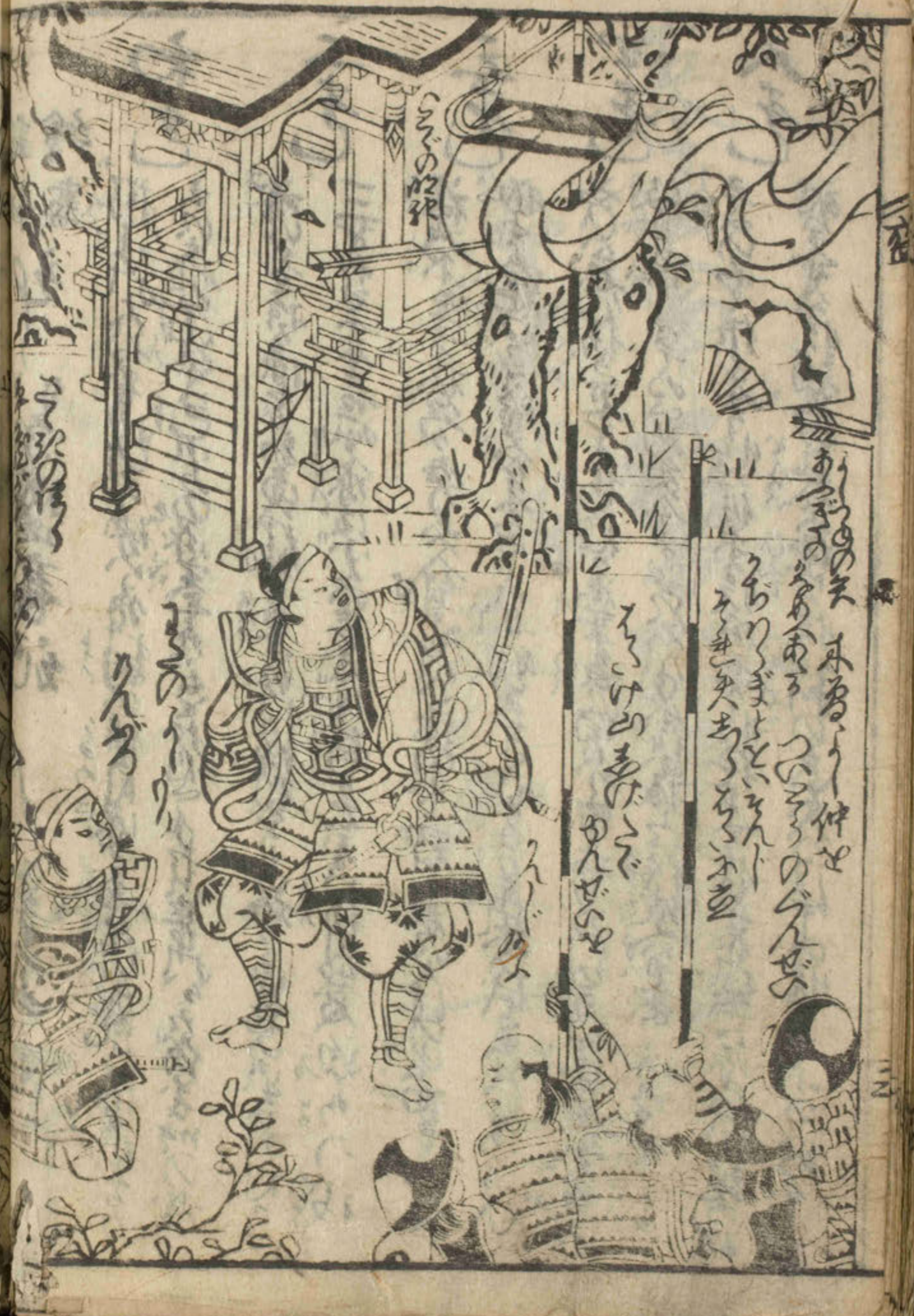


わが家の  
まじり  
おあふ

大でま

あつちのたぢり

んわ



あつちのたぢり  
あつちのたぢり  
あつちのたぢり  
あつちのたぢり  
あつちのたぢり

あつちのたぢり

あつちのたぢり







あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた



あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた











あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの

楠山 中夏 高  
嵐 山 伴 佐

瀬川 美 彦

おたふ 大 出 舞

あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの



あんなの

あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの

あんなの

あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの  
あんなの



あひさ

源の  
梅の

梅の  
源の

梅の  
源の

梅の  
源の

梅の  
源の

梅の  
源の

あひさ

梅の  
源の



梅の  
源の

梅の  
源の

梅の  
源の

梅の  
源の

梅の  
源の

十



時代 よ  
 世 よ  
 終 は  
 新 あ  
 う あ  
 む あ  
 物 あ  
 終 あ  
 中

江戸  
 町  
 新  
 物  
 終  
 中



大肉



そのの  
そのの

そのの  
そのの

そのの  
そのの

そのの  
そのの



おん  
おん  
おん

そのの  
そのの

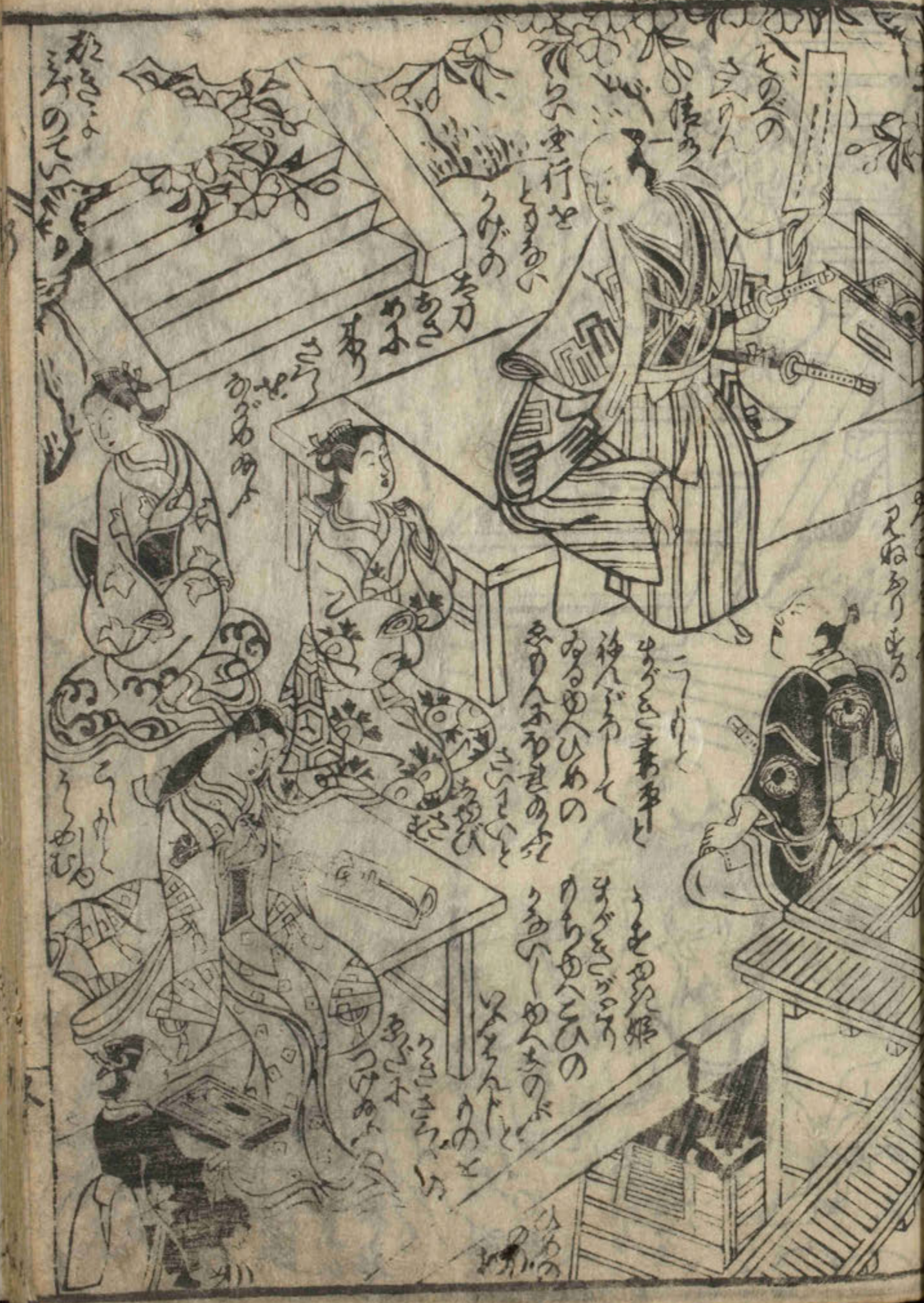
そのの  
そのの

そのの  
そのの

秋月

そのの  
そのの





ひんがしの  
こころ  
たぐさ

子母とくえんどうせいの秘のま  
おこのこころをいれおとよま  
まぐさのこころ  
作中笑書

春空の  
はるあつと  
のこころ  
あつたよ  
さうら



降坂屋信明

玉の  
あつた  
りんがし  
たぐさ

神上屋信

こころはつた  
あつたよ  
さうら

カチんがしの



あつたよ  
さうら

あつたよ  
さうら

あつたよ  
さうら

あつたよ  
さうら



生後雲太郎

子光を  
あやぐま  
そりてあがの櫓は  
らるくまをせむらふ

秋月大がえ  
ひのたりの

後尾元太郎

柳山聖十郎

けおそで死  
大あつり

かたじけなく

あつり  
おのれひり  
かんごつて  
おんご  
おんご



ひやんあし  
まののちが  
ふん光七郎  
南川甚五郎

長谷屋合郎  
柳山買合郎

あつり  
おんご  
おんご

竹中半吉

嵐辰三郎

おんご  
おんご  
おんご

後尾元太郎

あつり  
おんご

あつり  
おんご



このの  
まの  
つぎ

わづら  
あつた

まのの  
あつた  
あつた

あつた

あつた

あつた



あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた





文章の巻物  
 御樂の太鼓



栗嶋譜  
 雛人  
 形



全  
 画

御樂の太鼓

栗嶋譜

御樂の太鼓



栗 栗  
栗嶋譜家入離飛

五段續



栗嶋の  
まゝ

おん  
おん  
おん  
おん

おん  
おん  
おん

おん  
おん  
おん  
おん



栗嶋の  
まゝ

おん  
おん  
おん  
おん

おん  
おん  
おん

おん  
おん  
おん  
おん









あつた  
うらやま  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた

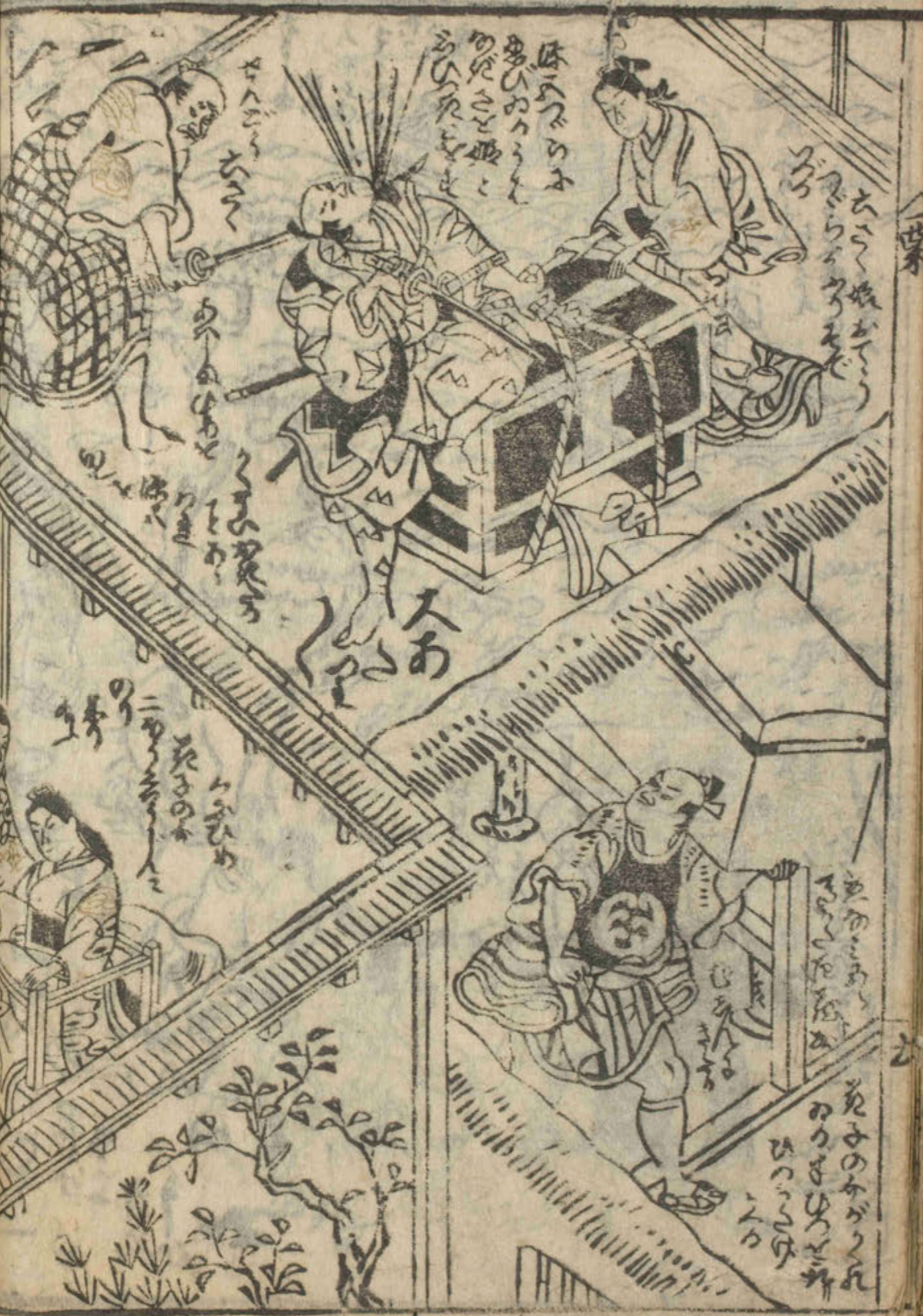


あつた  
あつた  
あつた

あつた

あつた  
あつた  
あつた

あつた  
あつた  
あつた









襦重

紅

梅

服

繪盡

全

越前掛二六  
 密ま  
 あんらん  
 こころい  
 見こまろ  
 女房

寛政二丁目  
 五右衛門  
 五右衛門  
 五右衛門

五右衛門  
 五右衛門  
 五右衛門

五右衛門  
 五右衛門  
 五右衛門  
 五右衛門

此の服は、  
 箱板に、  
 赤梅の  
 花を、  
 散らす、  
 上中下、  
 七、  
 月、

# 裙重紅梅服

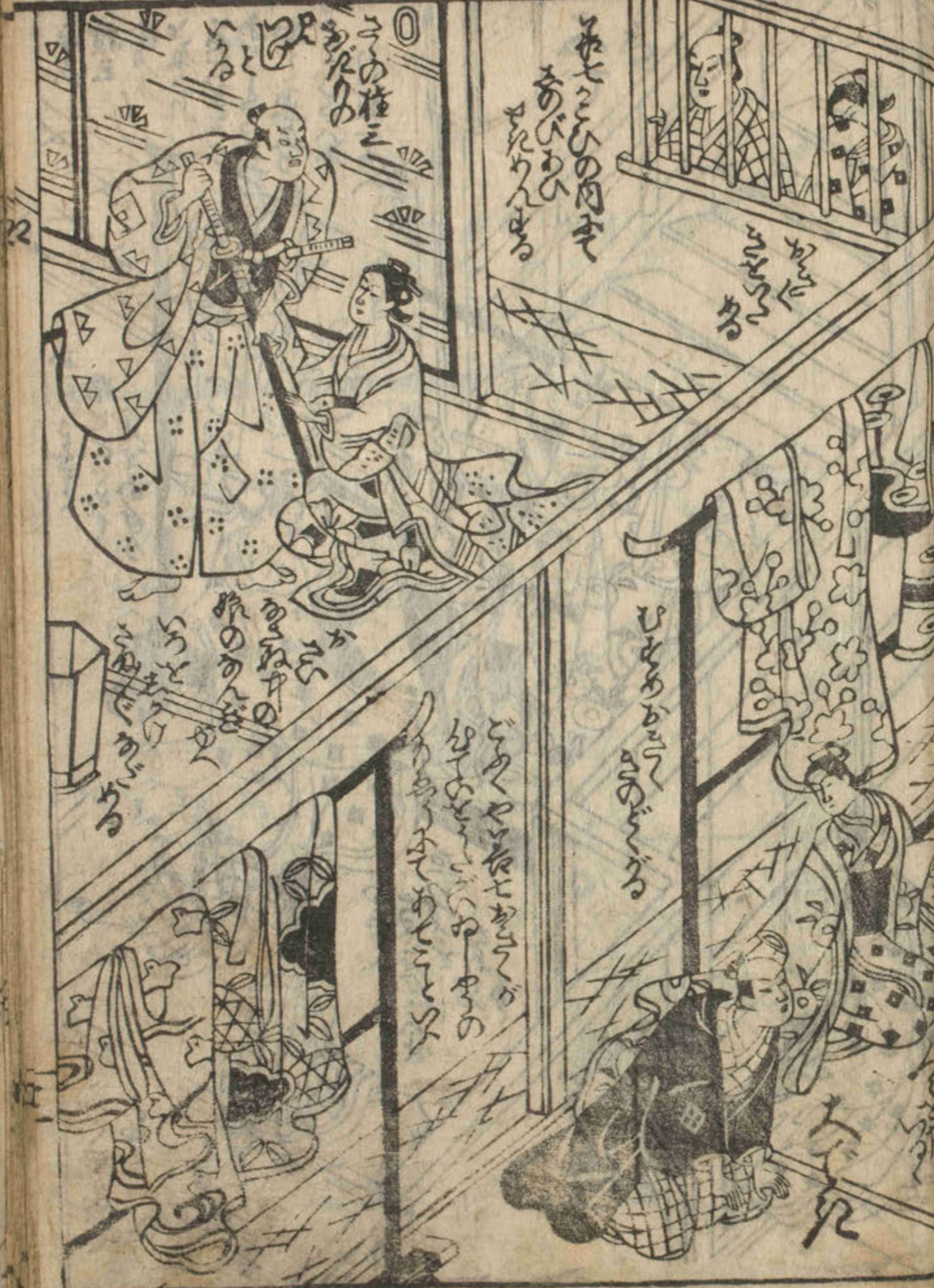
上中下



幸内侍の  
 御座り  
 申す

此の  
 箱板  
 の  
 赤梅  
 の  
 花

この  
 箱板  
 の  
 赤梅  
 の  
 花



この  
 箱板  
 の  
 赤梅  
 の  
 花

この  
 箱板  
 の  
 赤梅  
 の  
 花

この  
 箱板  
 の  
 赤梅  
 の  
 花

この  
 箱板  
 の  
 赤梅  
 の  
 花

この  
 箱板  
 の  
 赤梅  
 の  
 花









あはれ  
いせん  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ



あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ



あわら

他はあまの  
うらさうた

あで

も娘がやしののち  
あだやかろめま

あか  
さうわ

あは  
うら



あわら

他はあまの  
うらさうた

あは  
うら

あは  
うら

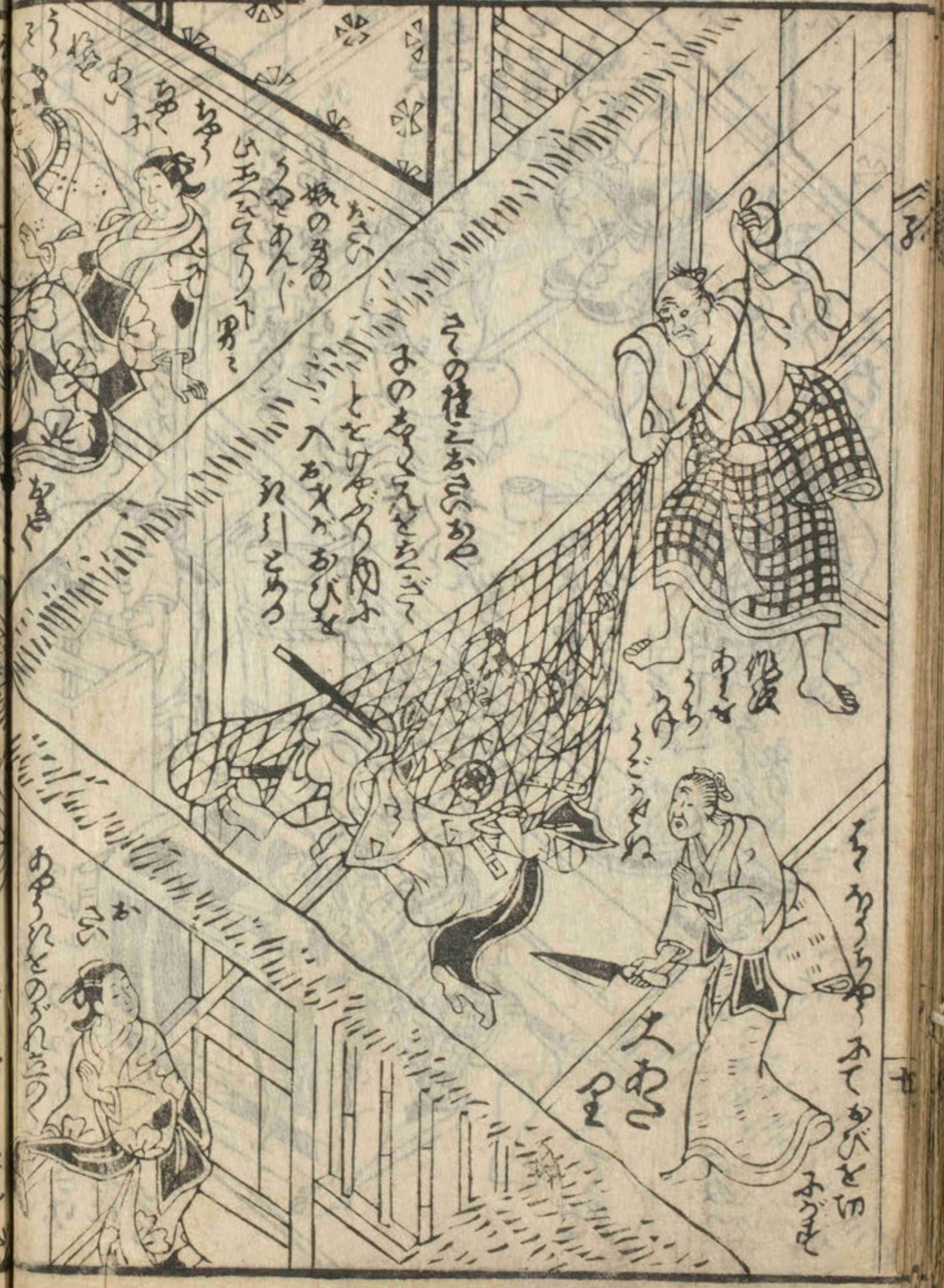


法衣  
布し  
ぬと  
あし  
あし  
あし

あし  
あし  
あし  
あし  
あし

あし  
あし  
あし

あし  
あし  
あし



あし  
あし  
あし  
あし  
あし

あし  
あし  
あし  
あし  
あし

あし  
あし  
あし

あし  
あし  
あし

あし  
あし  
あし

その撞三  
うりおおせん  
とてうらとて



あつた  
あつた



あつた  
あつた



あつた  
あつた

あつた  
あつた

ついでに  
ついでに

あつた  
あつた



あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

あつた  
あつた

菅原傳授



平

習

鑑

金

新編菅原傳授

道州寺尾行旅  
大宰府北行旅

# 菅原傳授手習鑑

五段續



このまの  
まのまの

長敷のまの



長敷の  
まのまの

このまのまの



このまのまの



このまのまの

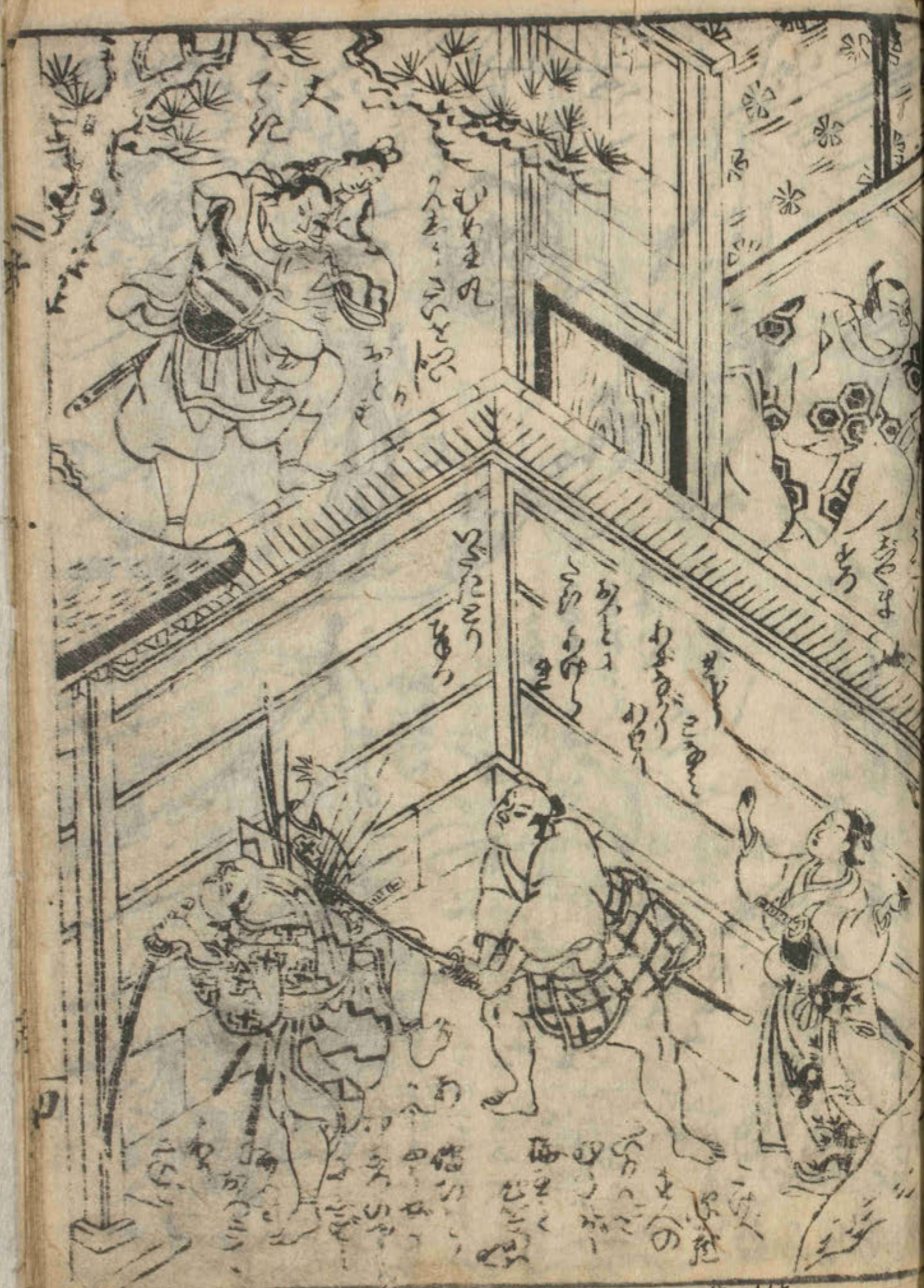
このまのまの



このまのまの  
このまのまの  
このまのまの

このまのまの





竹  
鶴



竹  
鶴





年

さくら丸  
あかりの  
あかりの  
あかりの

あか  
あか丸  
あか丸

依田の  
ねの  
ねの

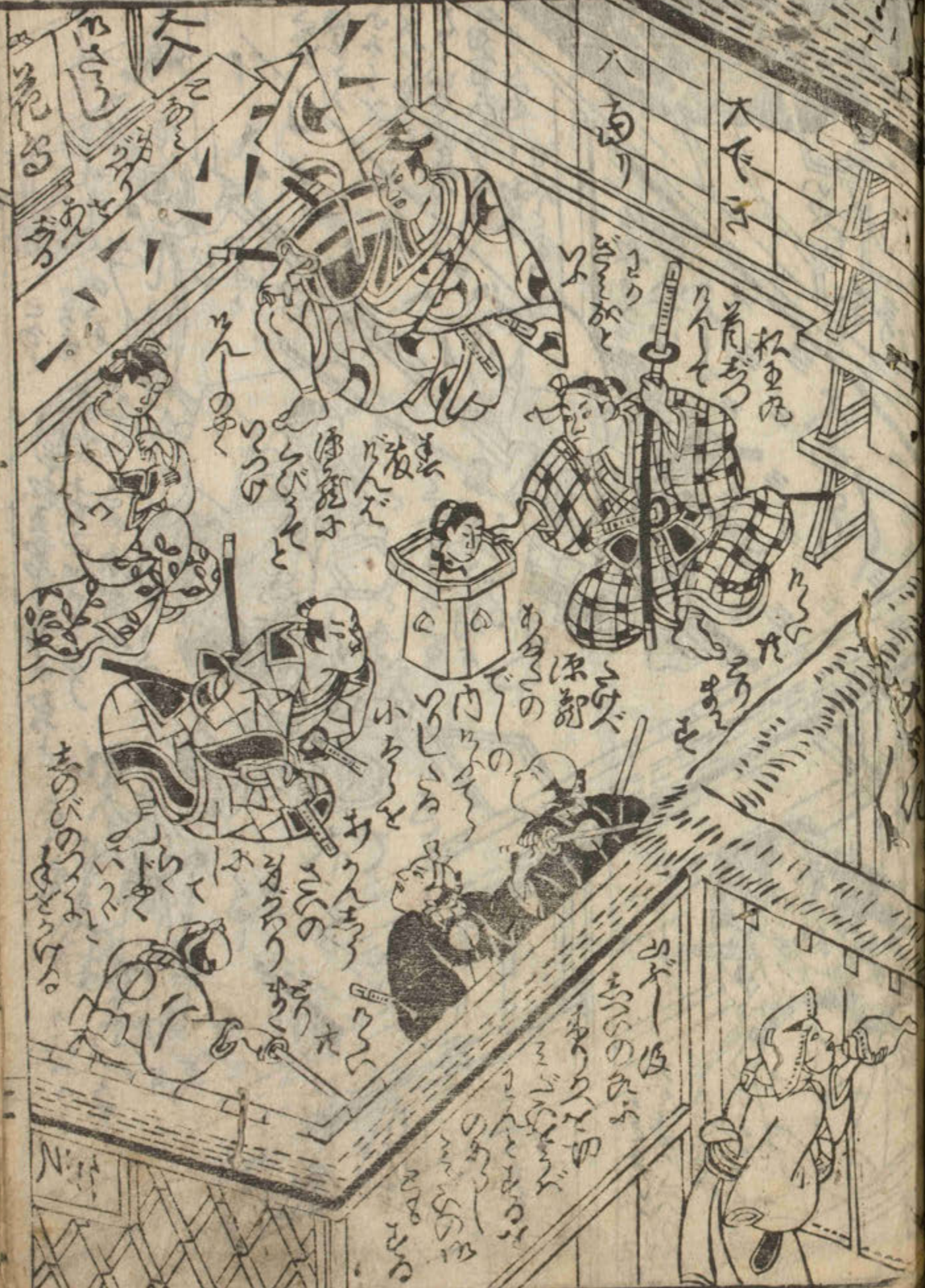
さでえ

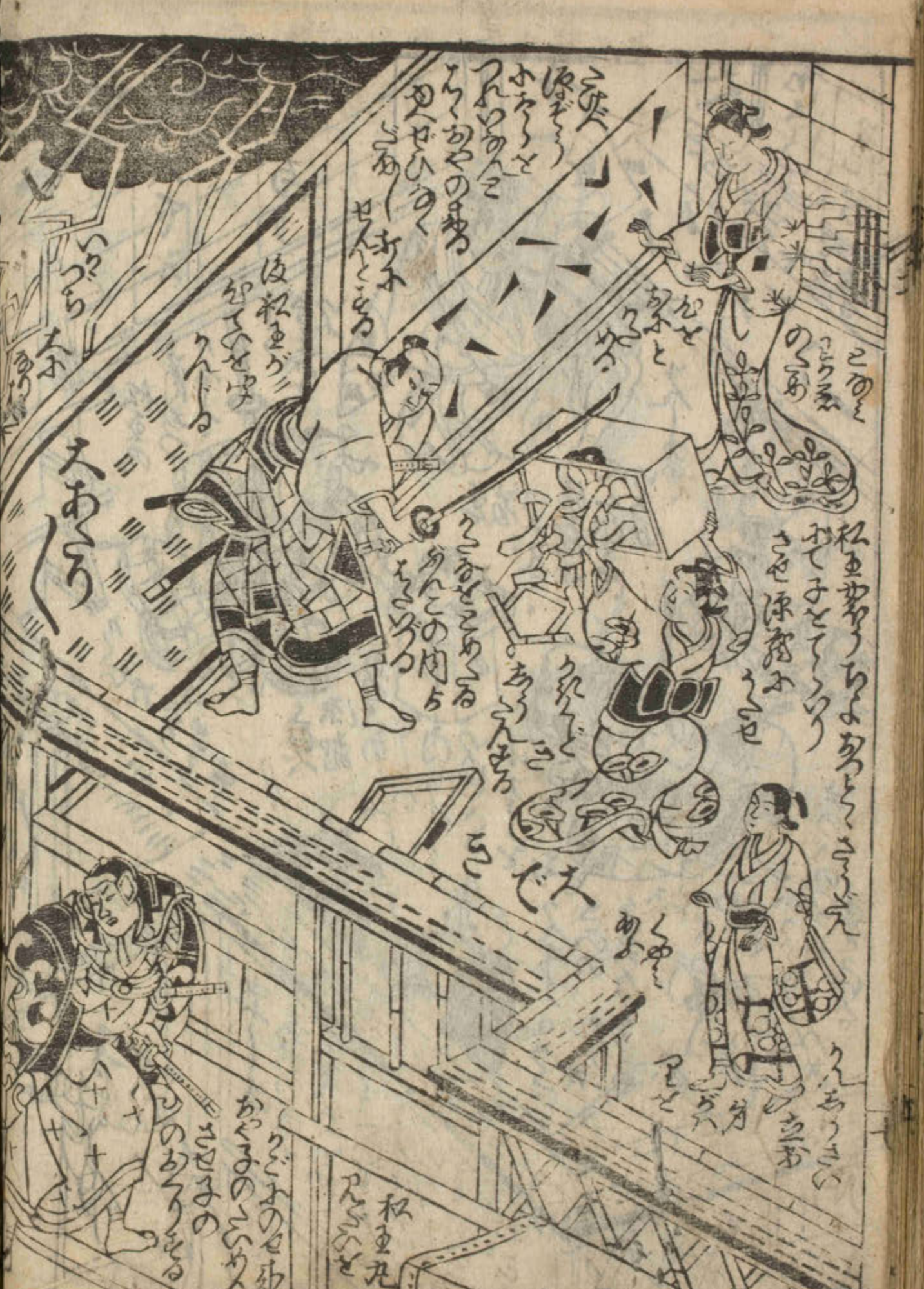
あつちの  
あつちの  
あつちの

頼州



頼夏





天満大月坐三神

いまの世に  
まじりて  
中なりて  
お運一ひて

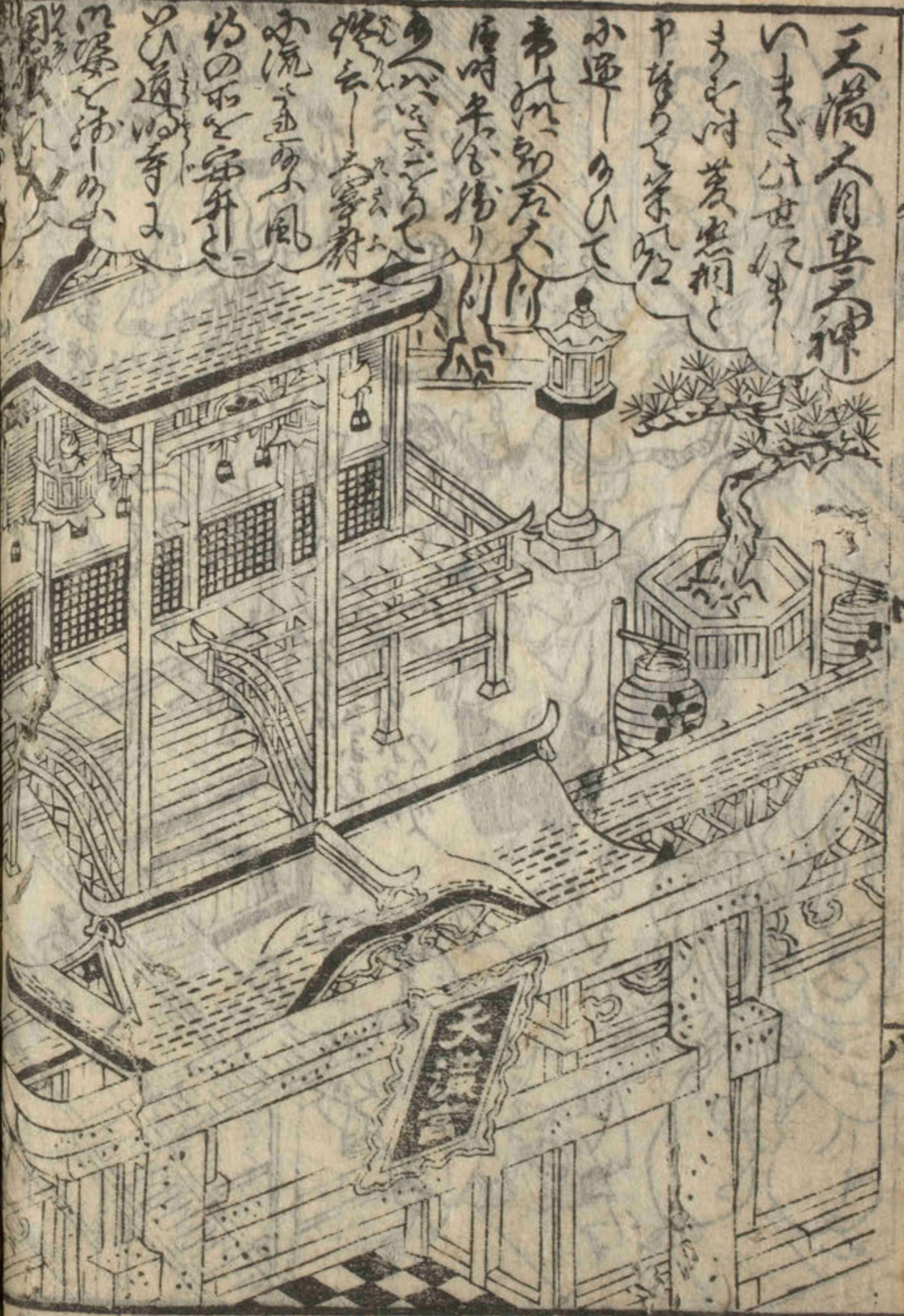
市井の  
屋の半  
おん

おん

おん

おん

おん



此所

大

おん

おん

おん

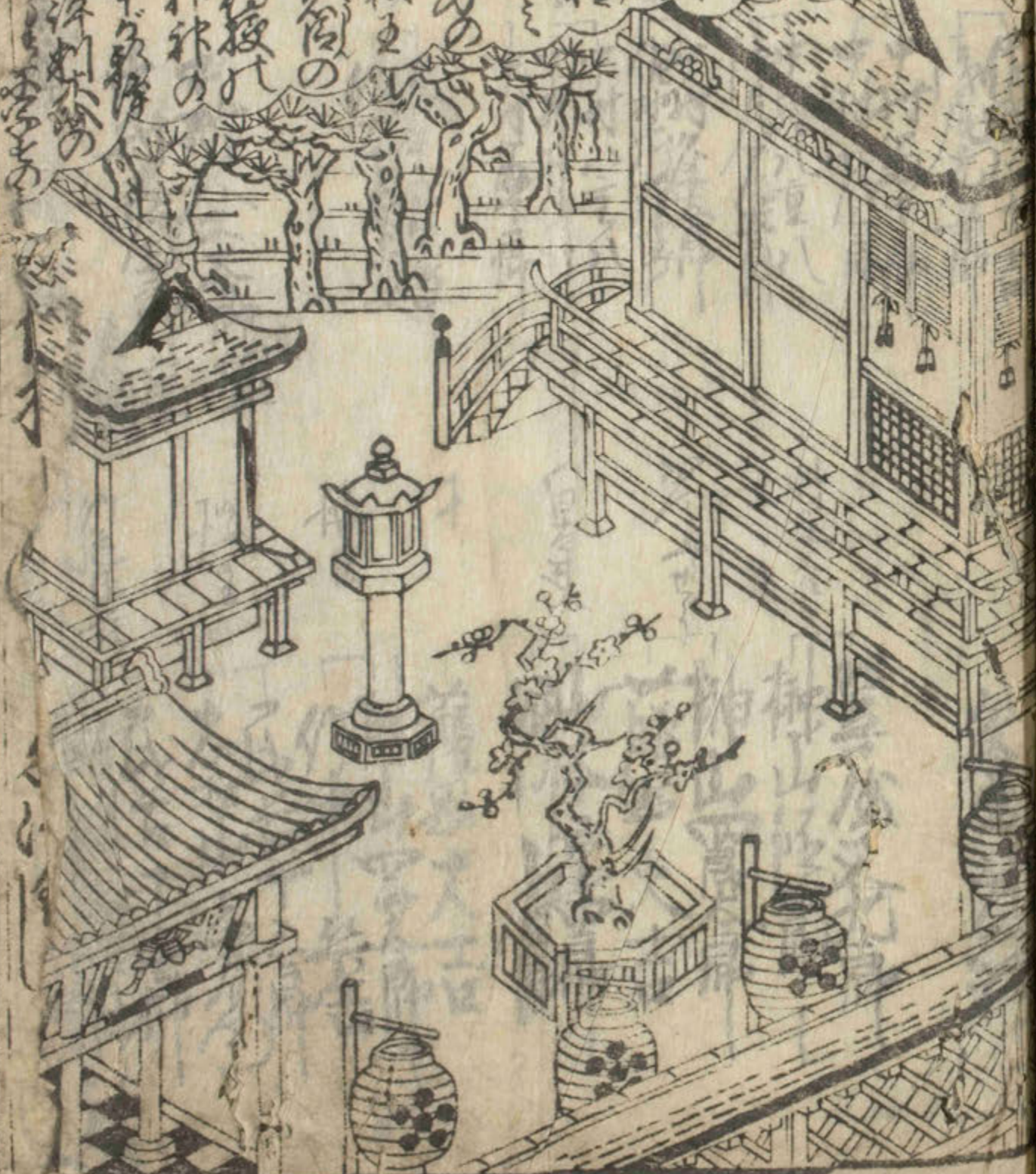
おん

おん

おん

おん

おん



此所



大正 七

八多及八右板

長元

中村長元十郎

長元

中村長元十郎

長元

中村長元十郎

長元

中村長元十郎

長元

中村長元十郎

長元

中村長元十郎

長元

中村長元十郎

村長元

長元十郎

村長元

長元十郎

村長元

長元十郎

村長元

長元十郎

村長元

長元十郎

中村長元十郎座  
中村長元十郎座

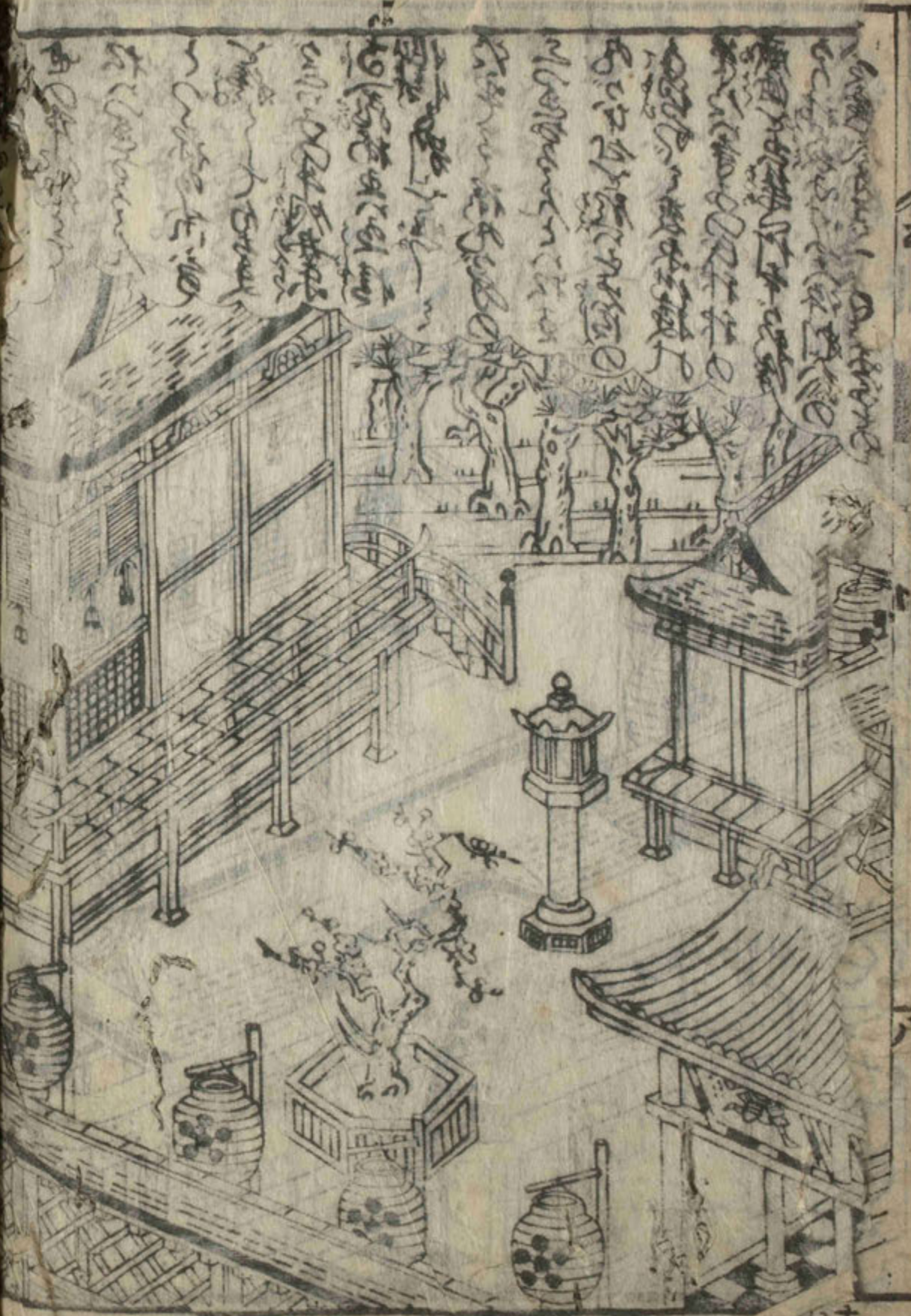
梅屋

梅屋

梅屋

梅屋

梅屋



八多及八五板

中村元五郎

中村元五郎

中村元五郎

中村元五郎

中村元五郎

中村元五郎

中村元五郎座  
中村元五郎座

村元五郎

村元五郎

村元五郎

村元五郎

村元五郎

村元五郎

村元五郎

藤山四郎大士  
藤山四郎大士  
藤山四郎大士  
藤山四郎大士  
藤山四郎大士

藤山四郎大士  
藤山四郎大士  
藤山四郎大士  
藤山四郎大士  
藤山四郎大士





振袖此方乳人  
留袖此方招婦



女房

竹本鏡後撮

スあかり



珠分手鑑

品比色

全

忍

Multiple columns of handwritten Japanese text (kuzushiji) in various styles, including vertical columns and some horizontal lines. The text appears to be commentary or a list related to the illustration on the left page.



振袖は乳人  
 苗袖は招婦  
 恋女房  
 縁分  
 網  
 竹  
 舞  
 後  
 接



おしよりの  
 さざん  
 大者  
 ひんがりの

大でん

いちは  
 らは  
 びん

山  
 野  
 中

おんさの人のまろく  
 らぬのふ

かんと  
 かんせ  
 しん

おたのめ  
 大とのまやみ  
 らふのま

おのま  
 らのま

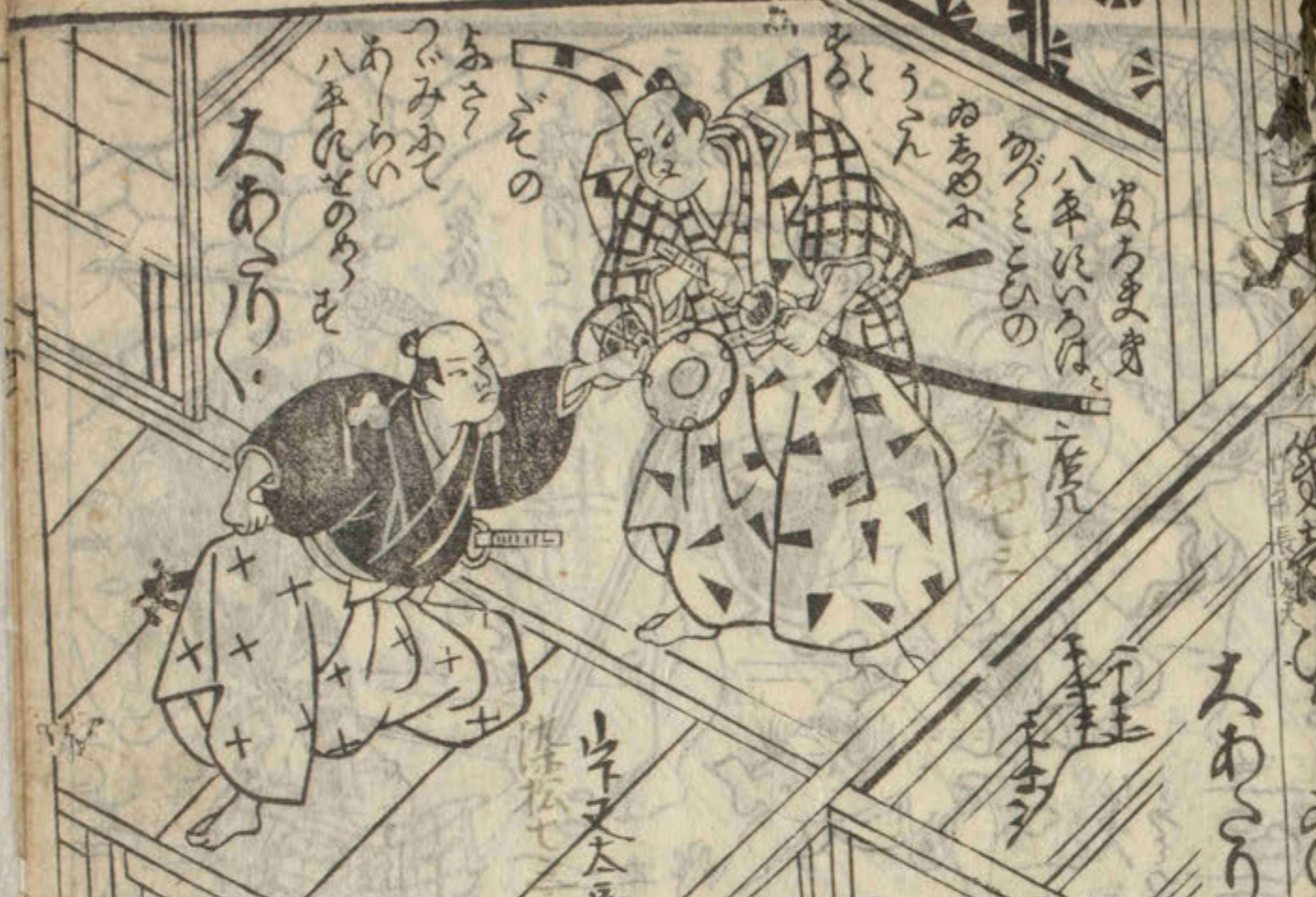


おあまき  
 八平のいな  
 おあま  
 うこん

大あつり

おんま  
 らのま  
 おんま  
 らのま

おん  
 らのま



おあま  
 つみあて  
 あらひ  
 八平のいな



おん  
 らのま

おん  
 らのま



あま  
たし  
あは  
は

江戸  
大  
天  
下  
大  
天  
下



あ  
ま  
は

終  
ち  
更  
吉  
田  
文  
三  
郎

中  
方  
を  
印  
は  
中  
多  
結

中  
山  
三  
十  
三

竹  
村  
三  
郎  
の  
あ  
ま  
は

あ  
ま  
は

あ  
ま  
は

あ  
ま  
は

あ  
ま  
は

あ  
ま  
は

あ  
ま  
は

あ  
ま  
は



あ  
ま  
は

あ  
ま  
は

あ  
ま  
は

あ  
ま  
は

あ  
ま  
は



竹下路大天  
かきりのえ

とれ子  
あの方  
あの方

えいり

うどのさん  
くのかみさん  
こどもさん  
あかさん

あかさん

えいり

あかさん  
あかさん  
あかさん  
あかさん  
あかさん

あかさん



竹下路大天  
あかさん  
あかさん

あかさん

あかさん  
あかさん  
あかさん

あかさん  
あかさん  
あかさん

あかさん

あかさん  
あかさん  
あかさん



ひふちゝわり

あーだのさのんね  
あーだのさのんね  
あーだのさのんね

長巻久

あつちの  
あつちの  
あつちの

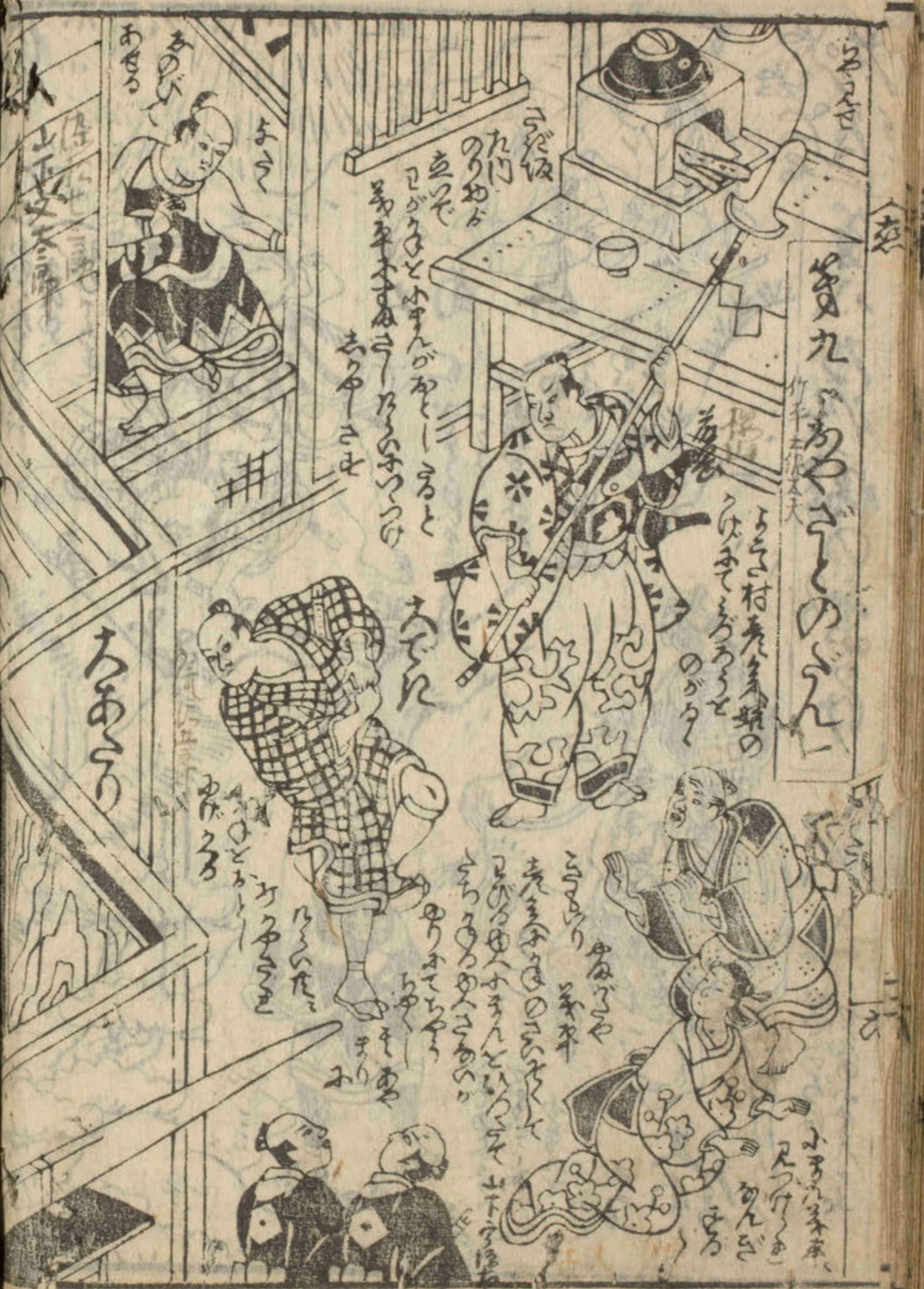
あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの



あつちの

あつちの

あつちの  
あつちの  
あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの



竹平源太夫  
竹平大膳

おちのり



おちのり

おちのり

おちのり

おちのり

おちのり

おちのり

おちのり

おちのり

おちのり

おちのり

おちのり

おちのり



